One Purpose

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

154
2008
April

FOR BETTER COMMUNICATION

特集
蘇った同志社人の誇り
同志社クラーク記念館、再生

●同志社人訪問
オーストリア・ブンデスリーガ
レッドブル・ザルツブルク
宮本 恒靖さんに聞く

CONTENTS

2008 APRIL No.154

『ONE PURPOSE』は学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動

特集

蘇った同志社人の誇り ---------- 2
同志社クラーク記念館、再生

新島襄をめぐる創作能 ---------- 7
本井 康博　神学部教授

同志社の研究は今 ---------- 9
コウモリの飛行の仕組みを探り、バイオ・ナビゲーション研究を推進する
バイオ・ナビゲーション研究センター　力丸 裕　生命医科学部教授

CAMPUS NEWS ---------- 11
京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト／「健康のためのスポーツの重要性を考える」同志社大学スポーツ健康科学部開設記念シンポジウム開催／神学部、社会学部の主たる学修校地を今出川校地に統合／本学卒業生の牧田真有子さん文學界新人賞で辻原登奨励賞を受賞／厚生館保健センター禁煙支援の取り組み／特定寄付奨学金募金協力者ご芳名／卒業生の新刊図書／本学教員執筆図書の紹介／新任・退職教員

在学生・教員の活躍

OP COMMENTARY ---------- 17
「バイオエンジニア」の使命　井上 望　生命医科学部教授

MY PURPOSE ---------- 27
レスリングでアジアジュニア選手権優勝 ～目標はこの夏初めて出場するインカレの優勝トロフィー～
国枝 美香さん（神学部2年次生※学年は取材時）

卒業生の活躍

INTERVIEW　～同志社人訪問～ ---------- 18
オーストリア・ブンデスリーガ　レッドブル・ザルツブルク
宮本恒靖さんに聞く

卒業生通信 ---------- 21
・五島 洋さん（1996年法学研究科博士課程（前期課程）修了）
・浜崎 英子さん（1988年文学部文化学科心理学専攻卒業）

MY JOB, MY LIFE　～シリーズ 私と「仕事」～ ---------- 23
・中島 智子さん（1992年工学部電子工学科卒業）
・東川 宗照さん（1998年経済学部卒業）

ANNOUNCEMENT ---------- 25

表紙の情景［クラーク記念館の望楼から望む今出川キャンパス］

60カ月におよぶ大規模修復工事を終え、2月21日に竣工式を迎えたクラーク記念館。1979年には国の重要文化財に指定されている。表紙の写真は、搭屋の八角形の望楼から西方を望んだ風景。左手には明徳館、図書館が見える。また、右手には至誠館、ハリス理化学館、そして同志社礼拝堂（チャペル）、彰栄館が続き、美しい赤煉瓦の建物が並ぶ。同志社の黎明期に建てられ今では貴重となった明治の建築物と、その後に建てられた近代建築物が美しい調和を見せ、エキゾチックな雰囲気を醸し出している。

特集

蘇った同志社人の誇り

同志社クラーク記念館、再生

1893年、同志社大学今出川キャンパスに、
印象的な尖塔をシンボルとする煉瓦造の建物が誕生した。
一組のアメリカ人夫妻の寄付をもとに建設された
ドイツ・ネオ・ゴシック様式の建物には、
夫婦の早世した息子の名が冠された。
クラーク神学館、現在のクラーク記念館である。
以降100有余年、同志社大学の神学教育・研究の拠点、
さらには神学部以外の
学生も利用する学舎の一つとして、
同志社の象徴的存在であり続けた。
そして今年、2003年1月から
60カ月におよぶ大規模修復工事を経て、
赤煉瓦の館は再び創建時の姿に生まれ変わった。
新たに「同志社人の誇り」として蘇った
クラーク記念館を特集する。

クラーク記念館の修復は同志社創立125周年を記念して行われた。1995年の阪神・淡路大震災で壁の一部が破損したこともあり、綿密な構造調査及び耐震診断を実施。2002年12月の理事会で保存補修工事が承認され、専門委員会を設置して修復内容を検討した結果、修復工事は「半解体修理」という方針で進められることになった。主な修復内容は、破損あるいは腐朽した箇所を健全な状態にする「修理」、詳細な調査と検討に基づき、110年間に改造されてきた箇所を建設当初の状態に戻す「復原」、そして建物全体の「構造補強」の3点。設計監理は京都府教育委員会に委託。2003年1月から工事を開始した。およそ60カ月におよぶ工事に要した費用は10億1760万円(文化庁より工事費の2分の1を補助)。工事従事者は延べ1万8400人に達した。

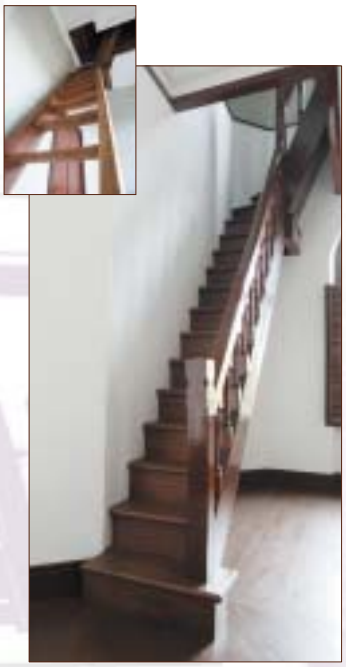
❻クラーク・チャペル

もともと「講堂」として授業や講演などが行われていたが、1963年に教室不足を補うため2つの部屋に仕切られた。今回の修復工事を機に、別の天井で隠されていた船底天井を見えるようにし、講演台側壁面の絵を復原、3つのシャンデリアも整備された。オルガンも入り質実な礼拝堂となり、チャペル・アワーなどで使用される。

❼欄間

正面のポーチを入ってすぐ上にある欄間には、クラーク記念館が建設されたときの本来の意義を示す「神学館」の金文字が彫られている。裏側の「Byron Stone-Clarke Memorial Hall」の金文字は、建設資金の提供元であるB.W.クラーク夫妻の早世した子息の名。

【内観】



❽望楼への階段

黒光りする階段はクラーク記念館のシンボルの1つ。今回の解体時、戦時下に予科の学生が自分の名前と日付を彫った跡が見つかり、クラーク記念館が長きにわたって学生とともにあったことがあらためてわかった。塔屋の望楼へ上る階段は、人が1人ようやく通れるほどの狭さ。

❶ドーマー窓（屋根窓）

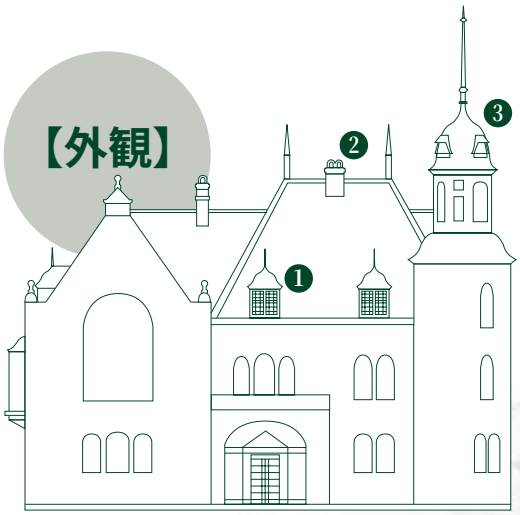
1931年頃に取り除かれたヨーロッパ風のドーマー窓を復原。当初の設計では屋根裏部屋を作る意図があり、明かり採り用に必要としたが、結果的に屋根裏部屋を作らないことになったため、創建当時は屋根の板を張った後から窓をのせた形で使っていた。しかし、そのままでは構造的に弱く、危険でもあることから取り外されたものと思われる。今回の復原では、小屋裏の材料と組み合わせて堅牢な構造にしたが、活用上は直接必要なものではない。

❷煙突雨除け

建設当初はあったものの取り払われていた煙突の雨除けを復原。煙突の下部は1階に設えられた暖炉に通じており、今回の工事で煙突内のつまりが除去され、暖炉は実際に使えるようになった。

❸塔屋

3階建て煉瓦造りで、クラーク記念館のシンボルである尖塔。緑青色の銅板葺きの屋根は建設当時の鉄板葺きに復原された。黒色が日差しに照り映え、よりクラシカルな雰囲気を醸し出している。木造八角形の望楼の小窓上部には尖塔飾りを復原し、望楼先端の突針を交換。従来の突針の木肌には「昭和9年9月21日」という日付と、工事を担当した職人、大学関係者の名前が彫られており、1934年の室戸台風で被害を受けた際に修理されていたことがわかった。



❹ホール

玄関を入ると、明治時代に戻ったようなアンティークな空間が広がる。当初のままの部材を使って復原された階段も、黒光りする手すりが往時の面影を偲ばせる。

❺教室

天井と壁の境目を漆喰で施した「蛇腹」や当初の美しい真っ白な壁、天井を、左官の伝統的な手法で再現するなど、明治時代の教室が修理・復原され、再び使えるようになった。椅子や机は、同志社に保管されていた明治時代のものを参考に、昔風のものが新しく作られた。

クラーク記念館の歩み

同志社の創立者・新島襄が世を去った頃、卒業生たちによって新島の名を冠した神学館建設のための募金活動が始まった。寄付金が思うように集まらず計画が頓挫しかける中、アメリカ人のクラーク夫妻から、館名に早世した息子の名前を入れること、息子を称えるタブレットを設置することを条件に、アメリカン・ボードを通じて約1万ドルの寄付金が提供された。それをもとにクラーク記念館の建設はスタートし、同志社の5番目の煉瓦建築として誕生することになった。

1892年11月　定礎式

1893年9月　クラーク神学館にて新学期開始

4月に上棟式が行われ、9月にほぼ完成。同月19日から本科・別科両神学生の授業が始まった。当時の名称は「久良留久（クラーク）神学館」。

1894年1月　開館式

1月30日に、同志社公会堂（現チャペル）で開館式が行われた。

1934年　室戸台風被害による修理工事

1963年　現神学館が竣工

現神学館が竣工したため「クラーク記念館」と改称。教室は神学教育以外にも使用されるようになった。

1979年　国の重要文化財に指定

屋内外ともに国の重要文化財に指定された。「建築設計図「新築仕様書等」も同時に附（つけたり）指定を受けた。

お知らせ

■第33回 Neesima Room企画展

【題名】よみがえる クラーク記念館

クラーク記念館は1893年に神学館として竣工して以来、「同志社のシンボル」としてその歴史を刻んできました。同志社が創立された明治時代、発展期を迎えた大正時代、そして多くの学生と教職員を戦地へと送り出した戦中期にも、クラーク記念館は同じ場所で同志社を見つめてきました。今回の企画展では、クラーク記念館の由来や歴史を振り返りながら、復原された箇所、工事中の新発見、匠たちの伝統的な技能などをご覧いただきます。これを機会に、よみがえったクラーク記念館をより一層身近に感じてください。

●期間　2008年4月1日(火)～2008年7月31日(木)
●時間　10時～17時（土・日は16時まで）
●場所　同志社大学今出川キャンパス
　　ハリス理化学館2階　Neesima Room
●閉室日　祝日、4月29日(火)～5月6日(火)

―公開講演会―

●講師　鶴岡典慶氏（京都府教育庁指導部文化財保護課　文化財専門技術員）
●演題　「クラーク記念館からのメッセージ～5年間の修復工事を終えて～」
●日時　2008年5月17日(土) 13時30分～14時30分
●場所　クラーク記念館2階　クラーク・チャペル
（お問い合わせ先　同志社社史資料センター　TEL:075-251-3042）

■クラーク記念館　パンフレットを発行

クラーク記念館保存修理工事の終了を記念して、パンフレットを発行しました。クラーク記念館の歴史、修復工事の様子、職人の技術などが掲載されています。クラーク記念館についてより詳しく知りたい方は、ぜひご覧ください。

（今出川キャンパス正門、西門門衛所に備付）

■今出川校地キャンパスツアー

本学の学生ガイドが今出川キャンパスを案内します。国の重要文化財である明治建築の建物から意外なエピソードを秘めた名所まで、多くの見どころが同志社大学の歴史と伝統を物語っています。学生ガイド（時給880円）も募集していますので、本学HPをご覧ください。

2008年度の実施予定

●4月12・19日(土)　●10月4・25日(土)
●5月10・24日(土)　●11月1・15日(土)
●6月14・21日(土)　●12月6日(土)
10時～11時30分　キャンパスツアー
※集合場所は当日正門・西門でご案内します（参加無料）。
（お問い合わせ先　企画部広報課　TEL:075-251-3120）

その他の同志社の重要文化財

有終館

1887年に書籍館として竣工。設計はD.C.グリーンで、空から見ると建物の平面は十字形になっている。1922年、図書館として役割を終えたこの建物を、当時の総長だった海老名弾正が命名した。

ハリス理化学館

1890年竣工。アメリカの実業家J.N.ハリスから10万ドルの寄付を得て、ハリス理化学校（理工学部の前身）の中心施設として建築された。A.N.ハンセルの設計で、建物の煉瓦積方式はイギリス・ゴシック。当初は、屋上天文台の塔が付けられていた。

礼拝堂（チャペル）

1886年竣工。日本にあるプロテスタントの煉瓦造の礼拝堂では、現存する最古のもの。設計はD.C.グリーン。アメリカン・ゴシック様式で、急勾配の切妻屋根が美しい建物。

彰栄館

1884年竣工。京都市内に現存する煉瓦建築物では最古のもの。アメリカン・ボードから寄付を得て建築された。設計はD.C.グリーン、施工は大工の棟梁である尾瀧菊太郎。中央正面の時計塔と鐘塔を兼ねた塔屋に特徴がある。

クラーク記念館保存修理工事竣工式、一般公開開催

同志社クラーク記念館の大規模修復工事が終わり、2月21日(木)、アーチ状の船底天井にシャンデリアの灯るクラーク・チャペルで竣工式が行われた。来賓に文化庁、クラーク記念館保存修理専門委員の方々をお迎えし、同志社関係者、工事関係者など約120人が出席した。

式典は賛美歌234Aの合唱で始まり、水谷誠キリスト教文化センター所長の聖書朗読と祈祷の後、亀井修二施設部長が工事の経過を報告。続いて挨拶に立った大谷實同志社総長は、クラーク記念館の歴史、修復工事に関係した機関、団体などについて説明、関係者への謝辞を述べるとともに今後の活用と保存に向けての決意を語った。さらに、来賓を代表して文化庁文化財部参事官付(建造物担当)主任調査官の村田健二氏が、工事関係者の尽力に敬意を表し、今後文化財として市民に愛されていくよう期待を述べたのに続き、八田英二同志社大学長が「同志社人の誇りとするクラーク記念館が復原され、学生、教職員、市民の方々に受け入れられることは私たちの歓びとするところです。私自身もゼミで学びましたが、多くの学生にとってクラーク記念館は思い出となってきた建物です。実際に学生が学ぶ教育の場であることは、クラーク記念館の大きな特色です。教育にも使う、チャペルとしても使う、これほど同志社らしいものはありません。同志社の建学の精神に立ち返り、今後ともクラーク記念館を教育、徳育の原点として活用していきたい」と挨拶した。

また23日には、修復されたクラーク記念館の内部を一般市民にも公開した。午前10時～午後1時の公開時間、デジタルカメラやビデオカメラを手に熱心に撮影する姿が見られた他、チャペルで行われたリードオルガンの演奏は椅子席がすべて埋まり、立ったまま耳を傾ける人も出るほどの盛況ぶりだった。訪れた市民の多くは、同志社で学んだ卒業生たち。中・高・大と同志社だったという男性(59)は「きれいになりましたね。昔のクラーク記念館を思えば雲泥の差です」と感慨深げに話した。また、施工を担当した(株)奥谷組の工事関係者も来校。実際に修復工事に携わった若手の宮大工たちは「普段は寺社の建築や修復の仕事が中心。こういった洋風建築物の文化財修復に携わったことは、今後の貴重な経験になると思う」と話し、完成したクラーク記念館を前に目を輝かせた。

INTERVIEW

修復工事の設計監理を担った
京都府教育庁指導部
文化財保護課から

文化財専門技術員・鶴岡典慶さんに聞く

●修復工事のポイントになったのは

重要だったのは「復原」ということです。想像的に作ってしまえば、それは復原ではありませんから。古い写真を調べてたまたま残っていたものを参考に、大きさや高さ、幅などひとつひとつの細かい寸法を割り出していきました。設計図は残っていましたが、作っていく中でいろんな変更がなされており、高さが違っていたり、平面図の大きさが違っていたりということがかなりありましたので、解体していきながらそこにあるいろんな痕跡をたどっていくという方法を取りました。加えて「補強」ということも大きな問題でした。構造的に強化する一方、完成した後、補強した部分を目に触れさせたくない。どういう補強をすれば目立たないかについて構造の専門家と協議を繰り返しながら進めていきました。

●苦労された点は

復原する一方、完成後実際に使用することが条件でしたから、復原と活用を両立しなくてはいけません。空調などの設備を違和感なく収めるなど、活用しやすいようにして、なおかつ建物としての復原を整える、その点では気を使いました。私自身、これまでは寺院や神社の修理が多かったものですから、煉瓦造の近代建築を担当するということで若干の不安はありましたが、ドイツ人の設計でも、実際に施工に携わったのは日本人なので、よく見ていくと仕事として似たようなところがあるのです。調査をしていても明治時代の職人さんのやり方を見ることができて、技術者としてはやりがいのある楽しい仕事でした。

●ここで学ぶ学生たちに望むことは

明治時代と同じ空間を共有しているという意識を持ちながら使ってほしいと思います。そうすることによって歴史を感じてもらい、また次の世代に引き継いでいくという意識で、大切にし、愛着を持っていただきたいです。

鶴岡典慶さん

能の前半、新島襄（右）と八重夫人（左）。病床の新島は学生の見舞いに慰められ、「庭上梅」に自らの信念を託し、同志社の発展を願う。（写真提供：井上裕久氏）

新島襄をめぐる創作能

生誕地の東京で公演

神学部教授　本井 康博

国立能楽堂

新島襄を主人公（シテ）にした創作能が、東京千駄ヶ谷の国立能楽堂で上演された。去る2月12日のことで、新島の165回目の誕生日にあたる。彼はこの日、幕末の江戸で生まれた。

歴史上の人物、とくに近現代に生きた人物が能のシテになる例は、あまりない。その点、新島にはきわめて恵まれたことで、今回の演能が「故郷に錦を飾る」好機会となった。会場には、アメリカ大使館（広報文化交流部）のキャサリン・L・ジャイルズ-ディアズさんを始めとする来賓の他に、2500人を超える応募者の中から抽選で選ばれた600人が、70分におよぶ能舞台を堪能した。

庭上梅

この新作能は、梅を愛好した新島にちなんで、「庭上梅（ていじょうのうめ）」と呼ばれている。「同志社紫譜（しふ）会」（同志社大学能楽部観世会OBの会）が数年かけて制作したもので、2005年に同志社創立130周年を記念して、学内の「寒梅館」で初演されている。館名は新島の漢詩にちなむ。

新島は梅を愛好し、漢詩を2篇残した。ひとつは「庭上の一寒梅」で、「笑ふて風雪を侵（おか）して開く」。もう1篇は「寒梅」で、「真理は寒梅の似（ごとし）　敢（あ）えて風雪を侵して開く」。風雪を「敢えて」、しかも「笑ふて」乗り切

能の後半、21世紀の学生3人が新島の志を体得した「舞」を舞い、同志社精神を高らかに謳う。（写真提供：井上裕久氏）

る寒梅の姿に新島は共鳴し、共感する。彼は梅の開花に自分の生き方を投影していたようである。

ところで新島の能面は、専用面として特別に制作された。生前の新島を髣髴させるような、精巧な作りが評判を呼んだ。初演同様に今回の再演でも新島襄の役は、観世流シテ方の井上裕久氏が務めた。謡本作成の中軸者でもある。

登場人物

登場人物は、新島の他、新島夫人（八重）と学生たちである。シテや笛、太鼓、後見（演者の背後でその世話をする人）などの演者は、同志社大学（能楽部）卒業生がほとんどで、「地謡」（8人）には現役の同志社大学生も4人出演した。

舞台設定は、1890年初頭の神奈川県大磯の旅館、百足屋。新島はここで最後の正月を迎えていた。大学設立運動のため、京都から関東へ赴いたものの、途上で倒れ、前年末に療養のため温暖な湘南に移っていた。しかし、結局、新島は同年1月23日、ここで永眠する。

能は、前後半の2部から構成されている。前半は、京都から見舞いにきた同志社学生に向かって、新島が創立期の苦難や学園紛争などをしみじみと語るというもの。

前半が終わると、間狂言が入る。作詞と出演は大蔵流狂言師の木村正雄氏で、自身、松本五平役を務めた。松本というのは、初期同志社の名物用務員で、新島校長から「さん」付けで呼ばれた感激などを独白する。

狂言の後、能の後半が続く。今度は21世紀の学生3人が登場し、夢物語を語る。彼らは夢の中で新島の精神と志を相互に披瀝し合う。同志社マーク（徽章）入りの扇子を片手に、3人が同志社精神を身体にみなぎらせ、輪になって喜び舞うシーンで能は終わる。

能楽堂ロビーでは、新島襄・同志社展示が行われた他、同志社グッズの販売もあり、多くの人で賑わった。（写真提供：同志社社史資料センター）

Column

新島襄って

1843年2月12日、上州安中藩の江戸藩邸（神田一ツ橋）で下級武士の長男として誕生した。少年時代、蘭学や英学を学び、自由や欧米文明に憧れた。ついに21歳で函館から密出国を敢行。欧米で9年間過ごし、牧師、宣教師となって1874年に帰国した。翌年、京都で会津若松出身の八重と結婚し、キリスト教系男子校（同志社英学校）を設立。教員2名、学生8名のささやかな出発であった。

以後、1890年に大磯で死去するまで、大学設立のために東奔西走した。

なぜ、「庭上梅」？

新島の人生は、まるで寒梅の開花のようである。寒梅をモデルにするかのように、悪条件や試練に「敢えて」立ち向かった一生であった。そうした梅への共鳴が、新作能のネーミングに現れている。

この能は、大筋で史実に基づきながらも、新島と交流のあった木戸孝允や、井上馨、伊藤博文、板垣退助といった「偉い人」はひとりも出ない。出るのは無名の人ばかり。このラインアップが、新島の生き方を暗示している。つまり、「庭上梅」は、いかにも新島的と言うか、新島流を貫き通している。

松本五平

新島は、誰に対しても水平目線、一視同仁であった。学生たちに、「自分を先生と呼ばないで。新島さんと呼ぶように」と懇請もした。生徒、学生らが「おい、五平！」と呼び捨てにした用務員の松本五平を、校長の新島はいつも「五平さん」と呼んだ。

「さん」付けされた松本は、大感激した。後に新島から洗礼を受けて信徒となったばかりか、「死後も先生の墓守を」と希望し、洛東の同志社墓地にある新島の墓前に葬られた。

校長と用務員が共に登場する、それも能と狂言の主役を張る、というのも、同志社的である。

松本五平の間狂言　新島の米国での募金のエピソードなどを語る。（写真提供：井上裕久氏）

コウモリの飛行の仕組みを探り、バイオ・ナビゲーション研究を推進する

バイオ・ナビゲーション研究センター

バイオ・ナビゲーションに関する基礎・応用研究を多角的に推し進めるための国際的研究拠点、そして国内・国際共同研究を遂行するための研究者の窓口として、2006年8月、同志社大学に開設されたのが「バイオ・ナビゲーション研究センター」だ。そこでは、独自開発した超小型テレマイクシステムを用い、超音波をソナーとして飛ぶコウモリの飛行の仕組みを探る研究を進めている。「脳の中の神経情報処理の解明」をテーマに研究を行い、今春から新設の生命医科学部教授に就任した力丸裕センター長に、現在取り組んでいる内容について伺った。

当研究センターはバイオ・ナビゲーションの国際的研究拠点であり、共同研究の窓口でもあります。そして、センターにおける研究の要となるのが、私たちの研究グループが開発した超小型テレマイクシステムです。これは飛んでいるコウモリに搭載できる極めて小型の超音波マイクロフォンシステムです。

通常のマイクロフォンシステムではコンデンサマイクを使いますから、非常に高い電圧をかける必要があります。そうすると当然大きく重いバッテリーが必要になりますが、それではコウモリに積むことはできません。したがって超小型テレマイクシステムでは、あらかじめコンデンサの間に電圧のかかったエレクトレットマイクロフォンを使い、アンプ、バッテリー、アンテナ、送信機も含めて、総重量が0.5～0.6グラムと極めて軽くなっています。

最初のバージョンを開発した1990年代の終わり頃には、まだ重量が3グラムくらいありました。それでも大型のコウモリには搭載でき、それまでは収集不可能だったデータを計測できるようになったのです。今のバージョンはさらに小型化が進んでいるのですが、小型・軽量化の大きなポイントになったのは、数年前に日本政府が外国からのコウモリの輸入を全面禁止にしたことです。それまで使っていた、体重が50グラムほどある台湾産のコウモリが輸入できなくなった。国内のコウモリは体重が5、6グラムしかなく、それに見合った重さの装置でなければ搭載できません。大幅な小型・軽量化が必須条件となって、さまざまな工夫をした結果、現在の形になり、国内の小型のコウモリにも搭載できるようになりました。また同時に、感度もより高いものになっています。これくらい小型で軽いものであれば、コウモリ以外の動物に載せることも可能です。

バイオ・ナビゲーションとは、生物の効率的移動案内という意味ですが、私たちが行っているのは、コウモリのナビゲーションの仕組みを知り、それを応用するということです。

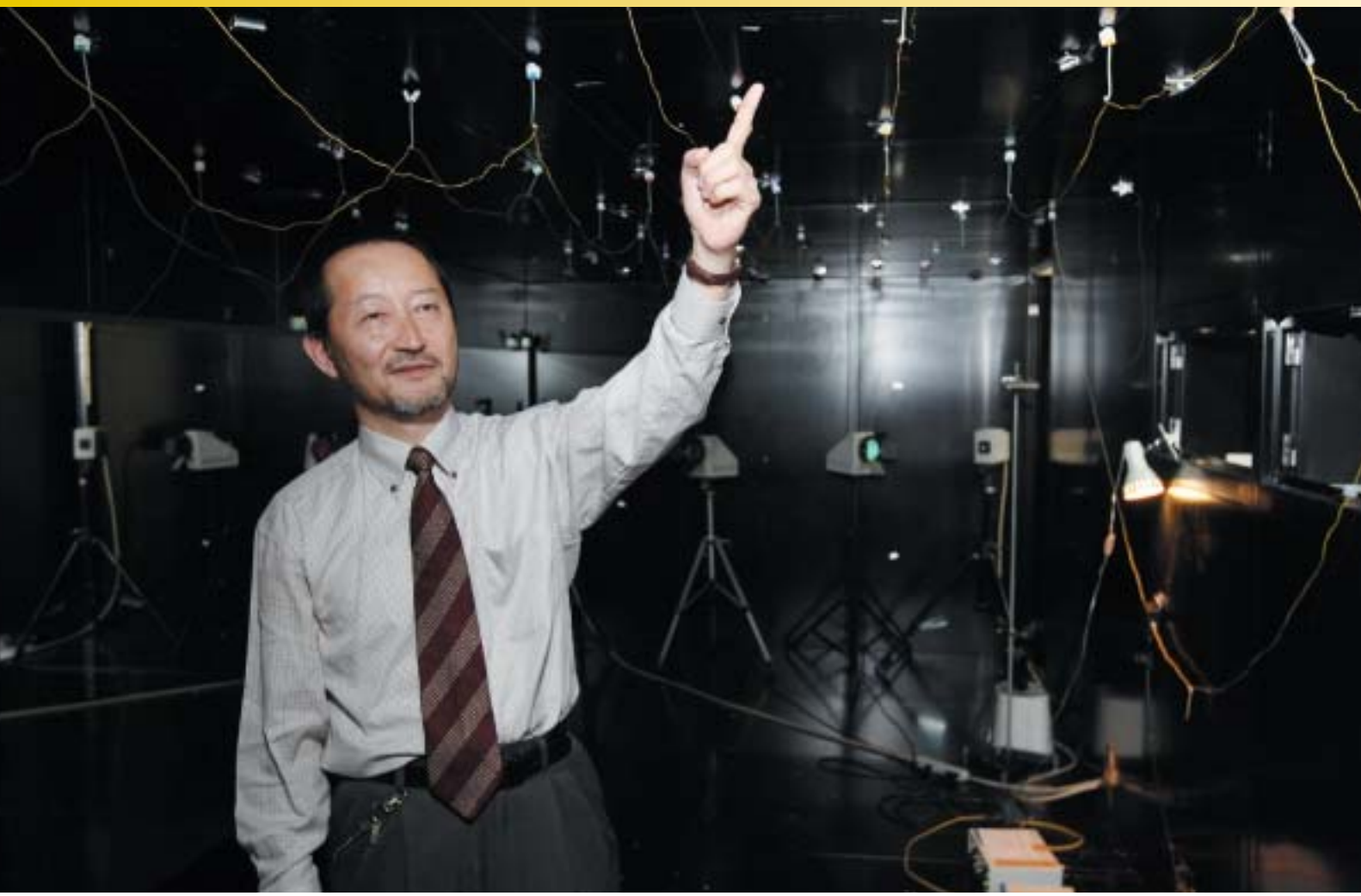
超小型テレマイク

ポイントになるのが、彼らの持つソナーシステム、すなわち超音波を使ったレーダーシステムです。どうやってコウモリがソナーを使って移動するのか、その仕組みを解明するには、まず彼らが何を聴いているのかを知らなければなりません。これまで飛んでいるコウモリの頭の位置でデータを取ることはできなかったのですが、超小型テレマイクシステムによってそれが可能になり、今まで気がつかなかったいろいろなことがわかってきました。

コウモリの鳴き声（超音波）を解析

一つは、コウモリのリアルタイム処理能力です。パソコンで同じことをしようとすれば、非常に速い演算速度が必要です。今のようにパソコンの演算速度が速ければ可能ですが、以前は難しかった。ところがコウモリの使っている演算装置、つまり脳の演算速度はたかだか1キロヘルツなのです。今、通常のパソコンのプロセッサは大体3ギガヘルツですから、コウモリは300万分の1の速度しかないプロセッサで演算し、リアルタイム処理をしていることになります。しかも一つではなく、複数の目標物をリアルタイムで処理して把握しながら飛んでいる。それには、例えば道を歩いている時に、前から来る人にぶつからないようにする、横のショーウインドーも気になるのでそちらを見る、躓つまずかないよう足下にも注意する。これらを絶え間なくやってい

力丸 裕【生命医科学部教授】



コウモリを飛ばして超音波を計測する暗室。他の電波を遮断するため鉄製の板で作られている。

く「時分割処理」というものが必要です。今のコンピュータならいくつかのことを同時にリアルタイムで処理できますが、遅い処理速度では当然リアルタイムでは不可能です。なのにコウモリは、パソコンの300万分の1という遅い速度で処理している。その仕組みが、この超小型テレマイクシステムを使ってわかるようになってきました。ですからこれは、ナビゲーションだけではなく、信号処理のやり方にも役に立つことになるわけです。こうした仕組みを応用すると、遅い処理速度でも速い演算能力を持った省エネのコンピュータをつくることも可能になるかもしれません。

また、コウモリが鳴き声（超音波）を出すのがアウトプット、その反射音（エコー）を聴くのがインプットになるわけですが、彼らはそのアウトプットとインプットを繰り返して飛んでいます。その飛行を見ることによって、彼らが目標物にどう対応しているのか、どの目標物に向かって計測を行っているかがわかります。これには、コウモリが飛んでいる軌跡をハイスピードビデオを使って録画し、三次元的に把握するようにしています。それによって、コウモリがどの地点で超音波を出したかもわかるようになりました。

狭い洞窟のような所で多数のコウモリがぶつからずに高速で飛び回ることが可能なのは、音情報を使うことによって障害物の把握を行っているからです。その機能は、まったく異なる分野にも応用できるはずです。例えば飛行機や自動車の自動操縦、遠隔地から超音波の音を検知して何かを計測することなどです。非破壊検査のようなことも可能かもしれないし、災害時でも使えるかもしれません。

われわれの研究センターでは、工学、心理学、生物学、行動学などさまざまな分野の専門家が携わり、バイオ・ナビゲーションに関する共同研究や国際シンポジウムを行っています。米国ブラウン大学やカリフォルニア大学のグループとも交流があります。超小型テレマイクシステムの実用化によって、コウモリの飛行からいろいろなことがわかり、その成果が多くの海外の研究者にも知られるようになりました。当センターでは、超小型テレマイクシステムを私たちの研究グループだけではなく、海外の研究者との共同研究を含めて、さまざまな研究に活用していただきたいと考えています。

ただ、今の段階では、まだコウモリの脳の中までは解明できていません。次の課題は、飛んでいるコウモリの脳からの信号をキャッチすること。脳からの信号を計測する装置を開発しないといけないと考えているところです。そしてその先には、飛んでいるコウモリを私たちがコントロールするということがありますね。向こうからの信号を受け取るのではなく、こちらから発信して彼らの行動をコントロールできるかということです。

私たちはコウモリの飛行の仕組みを研究することで、脳の構造を解き明かそうとしています。脳の構造や機能の解明は、情報科学、福祉工学、環境工学、生命・神経科学などへつながっていきます。まだまだ未知の部分が多く、それだけに大きな可能性を秘めた領域だと言えるでしょう。

キャンパスニュース

CAMPUS NEWS!

京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト

平成19年度の文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に同志社大学の学生支援プロジェクトが採択されました。この取り組みは、寒梅館を中心にした学生支援センターのさまざまな取り組みの延長線上に位置付けられますが、大学内でプログラムを展開するのではなく、大学と学生が町に出て、異世代との関わりの中で活動を行うことで、学生のライフスキルを高めていくことを期待するものです。

プレ企画として12月に寒梅館で開催された活動の様子

下宿や定食屋などで学生が町の人との繋がりを保っていた時代とは異なり、「ワンルームマンション」「コンビニエンスストア」「友人とのメールのやりとり」が中心になりがちな現代の学生にとって、町に住み、様々な地域社会と関わる経験は非常に大切です。「文化」を継承していくことや「社会」を構成していくための一員であることへの自覚を促すという意味でも、「地域による社会教育」の有効性に着目してきました。

具体的な活動としては、大学と学生が町に出て町家を借り、地域と連動しながら世代混合のサークル活動や議論を展開します。その他、異世代と協同で「歴史・文化・伝統産業」などの地域財産を発掘し、現代の生活の中に継承していく文化プロジェクトも検討しています。

そのような中、3月末に「子ども」「大人」「学生」「高齢者」など異世代が交流する場となる、町家「でまち家」がついにオープンしました。異世代との交流を通して、より豊かな学生生活を送るお手伝いをします。

【開室時間】火曜日～金曜日 11時～19時
土曜日 9時～12時

【場所】京都市上京区寺町通今出川下る西側（今出川校地から東へ徒歩7分）

今後の活動

■町家でサークル活動をしよう

子どもを交えた異世代混合のサークル活動を行います。手話・茶道・書道・京都検定・アニメ作りなど、詳しい講座内容はお問い合わせください。

【開催日時】火曜～金曜15時45分～16時45分
17時～18時
（各講座とも4月22日～7月11日の期間、週1回・全10回）※参加費は無料

■いろんな人と井戸端会議をしよう

路面電車・地球温暖化・スポーツ特待生・赤ちゃんポストなど、様々な社会問題について異世代の意見を聞きます。テーマはその都度掲示板やポスターでお知らせします。

【開催日時】4月29日（火・祝）19時～
5月27日（火）19時～

■季節行事で京都の四季を感じよう

子どもや地域の方と一緒に、イベントを楽しみましょう！

【開催日時】
○4月12日（土）10時～12時
茶道体験
○5月1日（木）～18日（日）
御霊祭（御神輿を担いだり、鉾の展示をします）
○5月10日（土）10時～12時
母の日ビーズアクセサリー作り
※材料費がかかる場合があります

■学生スタッフ募集

子どもと一緒に遊んだり、地域の人と季節行事を楽しんだり、京町家ならではの生活を体験し、町家プログラムに関わる全てについて一緒に企画・広報・運営してくれる学生スタッフを募集しています。

【お申し込み・お問い合わせ先】
同志社大学「でまち家」
TEL：075-251-3270
（今出川校地学生支援課）

「健康のためのスポーツの重要性を考える」同志社大学スポーツ健康科学部開設記念シンポジウム開催

今年度、京田辺校地に誕生したスポーツ健康科学部の開設記念シンポジウムが昨年12月2日、今出川校地明徳館21番教室で開催された。大阪芸術大学教授でスポーツジャーナリストの増田明美さんが「自分という人生の長距離ランナー」と題して基調講演。スポーツ健康科学部長の藤澤義彦教授をコーディネーターに、増田氏のほか、福山正紀同志社大学講師（医学博士）、小切間美保同志社女子大学生活科学部准教授（管理栄養士・栄養学博士）によるパネルディスカッションが行われた。

開会に先立ち、主催者として八田英二同志社大学長が「生涯スポーツや健康など、スポーツ健康科学部が教育、研究の対象とする分野はますます関心が高まっており、多くの方々のご理解を得て、そこでのさまざまな研究成果を地域の人びとに還元していきたい」と挨拶した。

続いて増田明美さんが基調講演をおこなった。増田氏は、千葉県の成田高校在学中から長距離種目で次々に日本記録を樹立し、女子マラソンが初めてオリンピックの正式種目となった1984年ロサンゼルス大会に出場するなど、92年に引退するまでの13年間に日本最高記録12回、世界最高記録を2回更新。自身のアスリートとしての体験や引退後に携わった国の諮問会議、厚生労働省の健康大使に選ばれた際の話題を交えながら、子どもの時に体を動かすことの重要性、大人になってからの健康づくりのポイント、科学的トレーニングが拓くアスリートの可能性などについて語った。そして、「私たち一人ひとりが、自分という人生の長距離ランナーです。誰もが自分の人生の道を健康で心豊かに美しく走っていくためにも、それをサポートしてくれる人材を、このスポーツ健康科学部が輩出してくださるものと期待し、応援しています」と、スポーツ健康科学部への大きな期待感を示して講演を締めくくった。

増田明美さん

続いて、「健康とスポーツ―予防医学、栄養学、スポーツ科学の視点から」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、スポーツ、医学、栄養学に関するそれぞれの専門家が、21世紀の健康づくりについて論じ合った。

まず、福山正紀講師が内科医としての立場から、最近話題のメタボリック・シンドロームについて解説、その改善のための正しい運動療法のすすめや、「健康寿命」を延ばし「活動年齢」を長くするための適度な運動の必要性を説いた。さらには患者と医者の間に立って、運動によって病気を改善する「健康運動指導士」の役割の重要性に言及、スポーツ健康科学部に「からだ全体を考えたワンランク上の指導をする人材育成を期待したい」と語った。

次に、小切間美保准教授は「健康のためには運動と日常の活動の両方を含めた身体活動が重要」として、生活習慣病の予防には、これらと食事のバランスをとることが必要であり、肥満を防ぎ体重を減らすために「通勤や買い物など生活の中で工夫して運動し、食べ物から摂取する油脂の量をコントロールしましょう」と呼びかけた。

藤澤教授は「1988年に当時の厚生省で認定された健康運動指導士は、近年健康増進センターや病院にもどんどん進出している」とし、「スポーツ健康科学部では社会のニーズに沿うよう、健康運動指導士の資格が取得できる道筋を立てている」と説明した。

また、アスリートにとっての食事とスポーツの関係について、増田さんが「今は競技の世界では栄養士の指導をしっかり受けることが常識で、選手の意識も高くなってきた。栄養学を学べば競技に生かされるという意識が、かなり高くなってきている」とする一方、小切間准教授は「中高生を含めたスポーツ選手の間で、サプリメントを飲めばパフォーマンスが上がるという誤解がある。栄養学ではあくまでも三度の食事が基本」と、サプリメントへの過剰依存を指摘。福山講師も「カルシウムや鉄分など、どうしても足りない部分を、医学的、栄養学的に調査・分析した上で、必要最小限の補食として摂るべき。サプリメントだけで体力が向上するという考えは間違い」と断じた。

福山講師が「歳をとったときにしっかり食べられてしっかり動けるように、身体づくりをして自分の体は自分で管理していただきたい」と話すと、小切間准教授は「食事と運動のコラボレーションの必要性が高まっているタイミングで、同志社大学にスポーツ健康科学部がスタートすることは、社会的にも非常に意義がある。私たち食の専門家も一緒になって、社会の役に立つ研究を展開したい」と語った。最後に、藤澤教授が「スポーツ」と「運動」という言葉が入り乱れて使われているが、本来は異なるもの。スポーツとはルールに則って営まれ、相手と競う要素が入ったもので、そういう要素がないものが運動です。このあたりを認識していただきたい」。そして、「今後とも皆様のご尽力によって、スポーツ健康科学部を発展させていきたいと考えています」と締めくくった。

神学部、社会学部の主たる学修校地を今出川校地に統合

本学は、2013年度から文系全学部の1、2年次教育を今出川校地に移転統合することを決定しています。12月6日開催の大学評議会で、2009年度から神学部と社会学部の2学部が先行して、1、2年次生を含む全学年の教育を今出川校地で展開することを決定しました。

これに伴い、神学部および社会学部の2008年度入学生は、1年次が京田辺校地、2年次以降は今出川校地で履修することになります。

【お問い合わせ先】
神学部・神学研究科事務室 TEL:075-251-3330
社会学部・社会学研究科事務室 TEL:075-251-3411

本学卒業生の牧田真有子さん 文學界新人賞で辻原登奨励賞を受賞

本学卒業生の牧田真有子さん（03年文学部文化学科美学及芸術学専攻卒業、07年文学研究科美学および芸術学専攻博士課程（前期課程）修了）が、文藝春秋の第105回文學界新人賞で、応募総数1727篇の中から5篇の最終候補に選ばれ、辻原登奨励賞を受賞した。

幼い頃から本を読むことが好きだったという牧田さん。「小学3年生の時に、友人が絵、私が文章と分担して物語を作っていたことを覚えています。詩や短編を書いて架空の世界を作り出すのが好きだった。ただ、中学、高校では勉強やクラブ活動が中心で、その合間に文章を書く程度でした」と話す。しかし、高校3年生の時、応募した作品がある賞の最終選考に残り、それが小説を書き進めていく一つのきっかけになったという。

大学時代は、年に1、2本のペースで小説を書き続け、「本屋サークル」に所属して同人誌を作ったり、読書会を開いたりしていた。大学院では、志賀直哉の「暗夜行路」を題材に、小説の中で美術作品がどのように扱われているかについて考察した。

今回受賞した小説のタイトルは「椅子」。主人公である女子大生のちはるにはかつて、

牧田真有子さん

「私は私の速さを超えられない」と思い知らされた経験があった。彼女の「時間」に対する不安が軸となって、病気の叔父や昔の恋人である橘との関係が絡み、ストーリーが展開されていく。辻原登氏の選評では、「「椅子」は、選考会前、唯一、高評価で臨んだ作品である。これは「王国」に憑かれた叔父、私、橘をめぐるきわめて文学的な、余りに文学的な小説である。だから野心作と映った」（『文學界』2007年12月号）と評されている。

現在は、出版社でアルバイトをしつつ、週末に集中して小説を書く日々。「〈私〉は何かに限定されることで〈私〉になっている。その「何か」は、現実においては莫大な要素が複雑に溶け合ったものだから、それとの関係から〈私〉をとらえようとしても難しい。「椅子」では「何か」の一つを時間と仮定し、その視点から主人公をめぐる世界について考えてみたかった。「何か」の要素をファインダーとすることによって〈私〉というものが少しでも見えてきたら。その思いが、小説を書く原動力になっているのだと思います」と語った。

牧田さんの小説「椅子」は、『文學界』（文藝春秋）2007年12月号に掲載されている。

厚生館保健センター 禁煙支援の取り組み

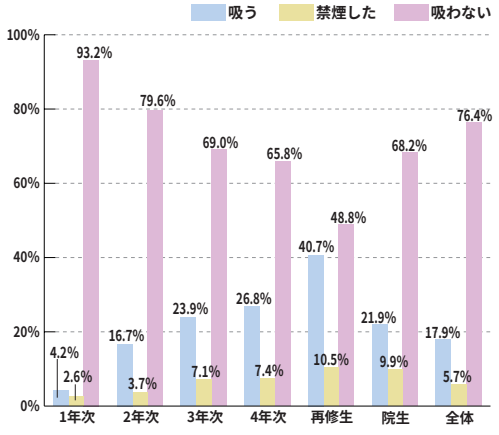
喫煙は、がんを始めとする各種生活習慣病の最大の原因であるにもかかわらず、タバコに含まれるニコチンは麻薬並みといわれるほど依存性が強く、一度喫煙が習慣になると禁煙することは非常に困難となります。

厚生労働省も喫煙を「ニコチン依存症」という病気ととらえ、2006年4月より、禁煙治療を条件付で保険適用としました。これは完全に禁煙した後の禁断症状を、ニコチンを含むはり薬を使って和らげ、禁煙成功率を高めようとするものです。

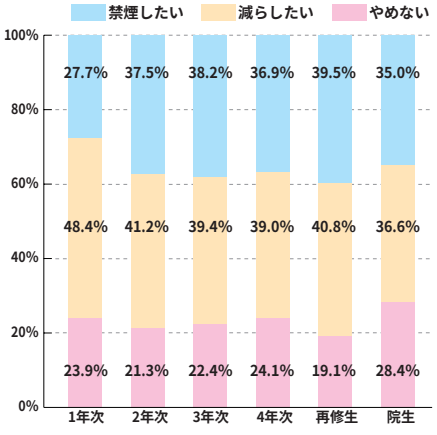
厚生館保健センターでは、この保険診療の行える医療機関として認可を受け、保険適用開始当初より禁煙治療を行っています。ただし、この保険診療は喫煙年数がある程度長いことが条件の一つ（1日の本数20本なら10年以上必要）となっており、若い学生は条件を満たすことができないのが残念なところです。2006年度、42名にニコチンパッチの処方を含む禁煙支援（うち4名は保険診療）を行い、2007年度もほぼ同様の数の支援を行っています。

本学の2007年度のデータでは、喫煙者は減りつつあるも男子学生全体の17.9%、特に4年生では26.8%が喫煙しています。そして、その6割以上が禁煙や減煙を希望しており、禁煙希望者の数は実際にはかなり多いはずです。また、教職員の喫煙者の場合

●2007年度 学年別喫煙状況 男子



●2007年度 学年別禁煙希望率



は、年齢的に保険適用になる割合が高いと思われます。

厚生館保健センターでは、今後さらに多くの禁煙希望者の支援を行いたいと考えており、希望する方はぜひ当センターに相談してください。そして、やがては学内の喫煙者がいなくなり、目標としている敷地内全面禁煙が、誰一人として反対する人もなく実現されることを願っています。

（厚生館保健センター）

特定寄付奨学金 募金協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

2008年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下のとおりご協力をいただきました。

2007年3月～2008年1月の申込者

	申込件数	申込額
・卒業生 ・ご父母 ・一般	73件	8,443,000円
教職員	57件	4,676,000円
合　計	130件	13,119,000円

ご芳名（敬称略、順不同）

【卒業生、ご父母、一般】

3,000,000円　中井 幸子
1,000,000円　土屋 桂
財団法人吉田育英会
900,000円　同志社生活協同組合
300,000円　同志社校友会
100,000円　浜村 光久
宇治郷 毅
渡辺 信一
蔭山 淳
70,000円　築瀬 正義
50,000円　越野 泰一
魚谷 雅彦
米田 昇平
46,000円　中村 清之
30,000円　天田 喜久
河村 忠紀
玉井 利宏
25,000円　今村 浩一
20,000円　石井 顕一郎
川野 修平
渡辺 弘道
藤原 東
10,000円　松本 邦博
豊田 俊一
冨岡 努
武田 味生
内河 謙二
5,000円　河田 久道
倉田 誠子
谷井 尚子
梅田 庸一
重本 清
本多 昌夫
高原 脩
竹村 敏勝
岩見 登
鈴木 克太郎
上田 正則
大久保 北斗
吉田 亜矢子
2,000円　坂井 啓人

ご芳名のみ（金額非掲載）

森田 秀夫　石蔵 利光　三原 誠治
山本 正宣　藤原 喜久雄　花園 堅一
前田 勝巳　廣澤 美智子　岡本 勲
柿本 学佳　世古 貞雄　清本 漢振
野村 長宏　奈良 光浩　森山 佳子
末永 勝廣　羽根 弘泰　隅田 尚武　八木 春作

860,000円（匿名合計）　匿名13人

【教職員】

500,000円　押本 年眞
300,000円　三上 保孝
150,000円　工藤 和男
120,000円　髙田 紀美
110,000円　亀田 尚己
60,000円　西川 真司
長澤 邦彦
植村 巧
肥田 美智子
高田 芳樹
林 廣茂
林 克樹
50,000円　加地 伸行
平山 朋子
黒木 保博
30,000円　八木 匡
20,000円　久保 真人
12,000円　北 幸史
10,000円　土屋 隆生
土佐 卓司

ご芳名のみ（金額非掲載）

吉田 謙二　越川 弘英　藤井 邦宏
森 康維　今川 晃　大澤 うらら　若城 智浩
冨山 俊一　黄 秋子　石黒 武彦　白石 健治
石田 英夫　兼重 雅好　脇 和代

1,162,000円（匿名合計）　匿名23人

※教職員については2008年度までの申込を受け付けていますが、今回は2007年度寄付額（2007年4月～2008年3月）のみの金額を掲載しています。

当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援をお願い申しあげます。

【お問い合わせ先】
財務部資金課　TEL.075-251-3150
e-mail:ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp

本学教員執筆図書の紹介　総合情報センター調べ（価格は税別）

メタヒューリスティクスと応用
廣安知之、三木光範　他　執筆　電気学会　7600円

Rによるデータサイエンス
金明哲　著　森北出版　3600円

アメリカ外交の諸潮流
村田晃嗣　他　執筆　日本国際問題研究所　2700円

思想史と社会史の弁証法
川越修　他　執筆　御茶の水書房　7600円

ワークフェア
埋橋孝文　編著　法律文化社　3300円

グローバル化と法
ハンス・ペーター・マルチュケ　編　他　信山社出版　3800円

エンサイクロペディア社会福祉学
埋橋孝文、木原活信、黒木保博、小山隆、中川清　他　執筆
中央法規出版　2250円

グローバリゼーションを生きる
小野塚佳光　著　萌書房　1900円

牧師
越川弘英　訳　新教出版社　5000円

ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化
玉井史絵　他　執筆　渓水社　8000円

ナショナリティについて
富沢克、長谷川年　他　執筆　風行社　2800円

東アジア国民性比較データの科学
村上征勝　他　執筆　勉誠出版　12800円

衆議のかたち
藤倉皓一郎　他　執筆　東京大学出版会　5500円

日本の民主主義
建林正彦　他　執筆　慶應義塾大学出版会　3800円

ストレスの科学と健康
野口範子　他　執筆　共立出版　3000円

総選挙の得票分析
森裕城　他　著　木鐸社　3500円

近代日中関係人物史研究の新しい地平
錢鵬　他　執筆　雄松堂出版　10000円

「韓流」のうち外
板垣竜太　他執筆　御茶の水書房　2800円

まちづくり行政訴訟
金子正史　著　第一法規出版　3800円

アメリカの学生獲得戦略
山田礼子　著　玉川大学出版部　3000円

卒業生の新刊図書（価格は税別）

『アメリカ・アメリカ』
二階堂 新さん（1979年文学部卒）
日本文学館　933円

『ねこと人 ミミと過ごした6314日』
みみのかづおさん（1969年工学部卒）
日本文学館　952円

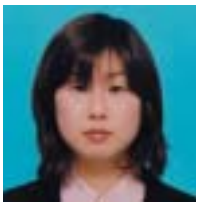
『伸びる組織のための賃金制度改革「事例編」』
赤津雅彦さん（1977年商学部卒）
労働法令協会　1429円

『私にもできた人生二度の株式公開』
清水三夫さん（1954年法学部卒）
日本経済新聞出版社　1600円

このたび新たに67人の先生方をお迎えしました。　①所属（学科）　②職名　③主な担当科目

川嶋 四郎
（かわしま しろう）
① 法（法律）
② 教授
③ 担保権実行法

田中 治
（たなか おさむ）
① 法（法律）
② 教授
③ 税法原理と市民生活



金子 絵里乃
（かねこ えりの）
① 社会（社会福祉）
② 講師
③ ソーシャルワーク演習

永田 祐
（ながた ゆう）
① 社会（社会福祉）
② 専任講師
③ 地域福祉論

畑 敏道
（はた としみち）
① 文（心理）
② 准教授
③ 生理心理学

新 茂之
（あたらし しげゆき）
① 文（哲学）
② 准教授
③ 科学哲学（1）・（2）

下楠 昌哉
（しもくす まさや）
① 文（英文）
② 准教授
③ 英語圏文学（3）

月村 太郎
（つきむら たろう）
① 政策
② 教授
③ 国際政治

滝西 敦子
（たきにし あつこ）
① 商
② 助教
③ アカデミック・リテラシー1

木村 公一
（きむら こういち）
① 商
② 講師
③ アカデミック・リテラシー1

本田 康二郎
（ほんだ こうじろう）
① 商
② 講師
③ アカデミック・リテラシー1

田村 正紀
（たむら まさのり）
① 商
② 特別客員教授
③ 流通戦略

佐々木 一郎
（ささき いちろう）
① 商
② 准教授
③ 年金論

崔 容熏
（ちぇ よんふん）
① 商
② 准教授
③ マーケティング・チャネル論

武田 博清
（たけだ ひろし）
① 理工（環境システム）
② 教授
③ 生物学Ⅳ

橋本 雅彦
（はしもと まさひこ）
① 理工（化学システム創成工）
② 准教授
③ 基礎化学実験Ⅰ

北岸 宏亮
（きたぎし ひろあき）
① 理工（機能分子・生命化）
② 助教
③ 基礎化学実験Ⅰ

人見 穣
（ひとみ ゆたか）
① 理工（機能分子・生命化）
② 准教授
③ 有機応用化学

佐藤 祐喜
（さとう ゆうき）
① 理工（電子工）
② 助教
③ 電気磁気学Ⅰ・Ⅱ

大谷 直毅
（おおたに なおき）
① 理工（電子工）
② 准教授
③ 電気回路学Ⅱ

式 王美子
（しき きみこ）
① 政策
② 講師
③ 政策トピックス

上野谷 敏之
（うえのや としゆき）
① 理工（エネルギー機械工）
② 教授
③ 工業材料Ⅰ・Ⅱ

横山 直人
（よこやま なおと）
① 理工（機械システム工）
② 助教
③ 物理学Ⅰ・Ⅱ

向平 敦史
（むかいひら あつし）
① 理工（電子工）
② 助教
③ 解析学Ⅰ・Ⅱ

木村 恭之
（きむら やすゆき）
① 理工（電気工）
② 助教
③ 基礎物理学Ⅰ・Ⅱ

津田 博史
（つだ ひろし）
① 理工（数理システム）
② 教授
③ 解析学Ⅰ・Ⅱ

三井 斌友
（みつい たけとも）
① 理工（数理システム）
② 教授
③ 線形代数学Ⅰ・Ⅱ

山根 省三
（やまね しょうぞう）
① 理工（環境システム）
② 准教授
③ 地球環境科学Ⅰ

萩原 明郎
（はぎわら あけお）
① 生命医科（医生命システム）
② 教授
③ 臨床再生医学

飛龍 志津子
（ひりゅう しづこ）
① 生命医科（医情報）
② 助教
③ 電子回路

剣持 貴弘
（けんもつ たかひろ）
① 生命医科（医工）
② 准教授
③ 物理学基礎

小泉 範子
（こいずみ のりこ）
① 生命医科（医工）
② 准教授
③ 再生医科学

森田 有亮
（もりた ゆうすけ）
① 生命医科（医工）
② 准教授
③ バイオマテリアル

伊藤 利明
（いとう としあき）
① 生命医科（医工）
② 教授
③ 応用数理

土屋 和雄
（つちや かずお）
① 理工（エネルギー機械工）
② 教授
③ 制御工学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

新任教員紹介

山盛 徹
（やまもり とおる）
① 生命医科（医生命システム）
② 助教
③ 生物学

斎藤 芳郎
（さいとう よしろう）
① 生命医科（医生命システム）
② 専任講師
③ 生体物質分析化学

齋藤 直人
（さいとう なおと）
① 生命医科（医生命システム）
② 専任講師
③ 細胞生物学 II

小林 聡
（こばやし あきら）
① 生命医科（医生命システム）
② 准教授
③ ストレス適応科学

辻本 哲宏
（つじもと てつひろ）
① 生命医科（医生命システム）
② 教授
③ 神経情報伝達制御学

市川 寛
（いちかわ ひろし）
① 生命医科（医生命システム）
② 教授
③ 機能性食品医学

米井 嘉一
（よねい よしかず）
① 生命医科（医生命システム）
② 教授
③ アンチエイジング

北條 達也
（ほうじょう たつや）
① スポーツ健康科
② 教授
③ リハビリテーション医学

井澤 鉄也
（いざわ てつや）
① スポーツ健康科
② 教授
③ 運動生化学

土谷 佳樹
（つちや よしき）
① 生命医科（医生命システム）
② 助教
③ 生物学

小林 耕太
（こばやし こうた）
① 生命医科（医情報）
② 助教
③ 神経機能計測

大江 洋平
（おおえ ようへい）
① 生命医科（医情報）
② 助教
③ 化学

横内 久猛
（よこうち ひさたけ）
① 生命医科（医情報）
② 教授
③ 医用機器概論

髙橋 美帆
（たかはし みほ）
① 生命医科（医生命システム）
② 助教
③ 生物学

小森 康加
（こもり やすか）
① スポーツ健康科
② 講師
③ スポーツ方法実習（水泳）

渡邉 彰
（わたなべ あきら）
① スポーツ健康科
② 教授
③ スポーツ行政論

海老根 直之
（えびね なおゆき）
① スポーツ健康科
② 専任講師
③ 栄養学

中村 康雄
（なかむら やすお）
① スポーツ健康科
② 准教授
③ スポーツ・バイオメカニクス

二宮 浩彰
（にのみや ひろあき）
① スポーツ健康科
② 教授
③ スポーツ社会学

石井 好二郎
（いしい こうじろう）
① スポーツ健康科
② 教授
③ 発育発達と老化

柳田 昌彦
（やなぎた まさひこ）
① スポーツ健康科
② 教授
③ 公衆衛生学

伊藤 玄吾
（いとう げんご）
① 言語文化教育研究センター
② 助教
③ フランス語

鈴木 美紀子
（すずき みきこ）
① 言語文化教育研究センター
② 助教
③ 英語

西村 健一郎
（にしむら けんいちろう）
① 司法研究科
② 教授
③ 労働法 I・II・III

佐々木 典子
（ささき のりこ）
① 司法研究科
② 教授
③ 民法講義IV（契約法 II）

三好 博昭
（みよし ひろあき）
① 総合政策科学研究科
② 教授
③ 企業と戦略

藤本 哲史
（ふじもと てつし）
① 総合政策科学研究科
② 教授
③ 雇用政策論

小屋 菜穂子
（こや なほこ）
① スポーツ健康科
② 助教
③ トレーニング科学特論

退職教員　2008年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

- 神学部 教授　古川 勝巳
- 文学部 教授　Klaus SPENNEMANN
- 法学部 教授　佐藤 鉄男
- 工学部教授　御牧 拓郎
- 工学部 教授　則元 京
- 工学部 実験講師　野田 純一
- アメリカ研究科 准教授　Cristian COLLET
- 言語文化教育研究センター 教授　西田 稔
- 言語文化教育研究センター 教授　押本 年眞
- 言語文化教育研究センター 教授　山本 雅昭
- 言語文化教育研究センター 講師　Matthew APPLE
- 理工学研究所 教授　成田 真二
- 文学部 教授　岡市 廣成
- 社会学部 講師　倉持 史朗
- 政策学部 教授　山下 淳
- 工学部 教授　中島 理一郎
- 工学部 実験講師　松岡 良明
- 工学部 実験講師　竹村 英昭

王 周明
（おう しゅうめい）
① 言語文化教育研究センター
② 助教
③ 中国語

Justine ROSS
（じゃすてぃん ろす）
① 言語文化教育研究センター
② 助教
③ 英語

John RUCYNSKI
（じょん るしんすきー）
① 言語文化教育研究センター
② 助教
③ 英語

中西 裕樹
（なかにし ひろき）
① 言語文化教育研究センター
② 助教
③ 中国語

「バイオエンジニア」の使命

米国では日本製の自動車や電化製品があふれている。しかしながら、米国の医療の現場で日本の製品を見ることはほとんどない。日本には多くの優れた生体材料の基盤技術が存在するが、それらの技術が世界の医療の現場で活用されていないのが現状である。その理由のひとつは、日本にはまだ医療の現場を理解した真の医工学の専門家が充分に育っていないことである、と私は思っている。

医工学に求められるのは医療機器や生体材料の開発だけではない。一般臨床の中でも医工学的な判断のもとに診断や治療が行われることが多い。その一例を紹介しよう。私が現役の整形外科医として働いていた時、私は大学病院内の骨折治療のすべての責任を担っていた。大学病院内では骨折はすべての診療科で発生するが、その多くは癌の骨転移による病的骨折である。癌の骨転移がレントゲン検査等で発見された時、侵された骨が折れるか折れないか、生体工学的な判断を求められる。病的骨折を起こせば、患者のQuality of Life（QOL）は著しく低下する。骨折による痛みは、時に原発巣の痛みを上回る。また、患者の動きが制限され、治療や看護・介護に大きな支障をきたす。骨折の予防的手術をするとなれば、手術に伴う生命的危険もある。予防的手術を行わないなら、どの程度の患者の動きが可能かを患者や医療スタッフに生体工学的見地から指導しなければならない。QOLは一般に「生活の質」と訳されているが、病的骨折に関する診断・治療は患者の「生命の質」を決定する。医工学の先進国である米国においては、しばしばこのような臨床的問題に対してバイオエンジニアの判断が求められる。バイオエンジニアは時として、医師と共に目の前の患者の「生命」にかかわる判断を下さなければならない。

米国は医工学教育においても先進国である。米国では医学教育は大学院教育としてSchool of Medicineで行われ、医師を志す学生は一般大学の学部を卒業してSchool of Medicineに入る。School of Medicine入学希望者は、医学に最も近い学部として医工学部を選択することが多い。医工学部の学生は、学部生時代から医療機関や医学研究所に出入りして医学・医療を知る。一方、医工学部教育においては、医工学の基礎となる学問体系は工学であるとの考えから工学基礎教育を充実させている。その結果として学生の医学・医療以外への進路も充実している。

先端医学・医療における医工学の役割はますます増加している。再生医学・医療においても再生組織の最適設計・培養条件の設定に医工学的アプローチは欠かせない。工業製品の設計においても医工学的手法が取り入れられるようになってきた。例えば、自動車の設計では人体は車の一部として設計に組み込まれ、人体組織の材料定数が自動車の設計に要求されるようになってきた。司法の場でも医工学的判断が要求されるようになってきた。米国では多くのバイオエンジニアが法律事務所に勤務し司法にかかわる仕事をしている。

今春、同志社大学に生命医科学部が開設され、本格的な医工学教育がスタートした。医工学科や医情報学科では、基礎工学の習得と同時に広い領域にわたる医学・医療に関する教育が受けられるようにカリキュラムが編成されている。また京都府立医科大学や学研都市病院など同志社大学と協定を結んでいる医学・医療機関の協力を得て、医学・医療の実際を学ぶ機会も与えられている。さらには海外の医療機関での研修を通じて、医工学の世界水準を学ぶ準備が整えられている。同志社大学において、医学・医療の現場を知った真のバイオエンジニアが育ってくれることを願っている。

Nozomu Inoue
井上 望
生命医科学部医工学科教授

京都市出身。京都府立医科大学卒業。同大学大学院修了。同大学整形外科助手を経て1992年に渡米、Johns Hopkins 大学整形外科（Baltimore）客員講師、専任講師、助教授、准教授を経て、2003年よりRush University Medical Center（Chicago）Orthopedic Biomechanics Laboratory Director、2004年同志社大学工学部環境システム学科教授就任。2008年度から本学生命医科学部医工学科・医工学研究科教授。Rush Medical College整形外科教授を兼任。

同志社人訪問

オーストリア・ブンデスリーガ　レッドブル・ザルツブルク

宮本恒靖さんに聞く

インタビュアー　浅地恭子さん【経済学部4年次生】

協力:ウェスティンホテル大阪(大阪市北区)

浅地●昨年初めてオーストリアに行かれて、率直なご感想をお聞かせくださいますか。

宮本●オーストリアに行く前は同じサッカーなのでそれほど違いはないと思っていましたし、日本代表で国際試合も多数経験していましたから、違いに戸惑うことは少ないかなと思っていたのですが、練習に合流して最初に感じたのは気質の違いです。例えば、チームメイトへの要求の激しさや負けん気の強さ。ただ、そんな戸惑いやプレー面でのフィジカルコンタクトの違いなどは、半年を過ぎたあたりで慣れてきました。日本でやっていたのと同じようにやれるようになった。それには、宮本恒靖という選手がどんなプレーをするのかということを、みんなにわかってもらえたことが大きいですね。

浅地●生活環境がまったく変わったことについてはいかがでしたか。

宮本●生活面の違いは大きいです。細かいことでは、スーパーで精算する時に、日本ではレジの人がカゴから出してくれますが、ドイツでは自分で出さないといけないですしね。でもこういったこともすぐに慣れました。家族も一緒に行っていますから、いろんな面で家族には負担をかけているとは思います。でも、家族を含めてすべてが経験だと、ポジティブに考えています。

浅地●宮本さんは英語などの語学にご堪能とお聞きしていますが、言葉に不自由はないですか。

宮本●いえ、そんなことはありません。ドイツ語は初めてですし、どうかなと思いながらスタートして、今のところぼちぼちというところですね(笑)。ピッチの中では、南米出身の選手もいますし、さまざまな国籍の選手の集まりなので、スペイン語で会話する選手もいれば英語でやり取りする選手もいます。でも基本はドイツ語になりますし、監督の指示もドイツ語ですから、まずはサッカーで必要なドイツ語の言葉を覚えることを心がけました。

浅地●高校を卒業後、すぐにプロ選手になられた宮本さんは、どうして大学に入学するという道を選ばれたのですか。

宮本●サッカー選手として成功する保証はなかったし、もちろん大学に進みたいという自分自身の気持ちもありました。大学までは行っておくように、という家族の考えもありましたね。いろいろな要素をもとに自分の中でベストの判断をしたつもりです。もちろ

宮本 恒靖さん
【2001年経済学部卒業】

1977年生まれ、大阪府富田林市出身。10歳で本格的にサッカーを始め、高校時代はガンバ大阪ユースで初代キャプテンを務める。トップチームのほか、日本代表でも年代別代表からA代表まで全カテゴリーでキャプテンを務める。2002、2006年FIFAワールドカップ出場。2006年シーズン終了後、レッドブル・ザルツブルクに移籍。

オーストリア・ブンデスリーガ
レッドブル・ザルツブルク

宮本恒靖さんに聞く

ん続けていくには、大学の先生などに理解してもらえた部分も大きいですね。ガンバ大阪でも、テストの時は練習に遅れることを許してもらったり、とにかく周りの協力が大きな助けになりました。

浅地●大学時代はサッカー中心の生活だったのでしょうか。

宮本●大学の部活動ではなく、ガンバ大阪のプロ選手として契約していましたから、両方ともおろそかにはできませんでした。うまく時間を見つけて必死にやりくりしましたね。ガンバ大阪の練習場が当時は京田辺市内にあったので、京田辺キャンパスからは近かったのです。15分くらいでしたから、その間を行き来するわずらわしさはあまりなくて助かりました。

浅地●大学生とプロのサッカー選手としてのバランスはどのように取っていたのですか。

宮本●サッカーの練習は月曜日がオフでしたから、外国語などの授業はできるだけその日に入れるようにしました。あとは、ある程度時間が取れる日に授業を組んだり、午前と午後の練習の間に授業に出たりと、何とかやっていけました。高校生の頃からガンバ大阪のユースでやっていましたから、学校とサッカーを両立する生活が染みついていたのですね。

浅地●では、大学の4年間では、授業以外の大学生としての生活はほとんどなかったのではないですか。

宮本●遊びの誘いは少なかったですね。誘われても次の日に試合が入っていたりすると無理でしたから。

浅地●サッカーと勉強の両立という大学の4年間で、宮本さんが得たものは何だったとお考えですか。

宮本●私は自分自身がサッカー選手というだけでは嫌だったのです。他の人に比べてしっかり勉強できたとは思いませんが、一人の人間として身につけないといけないものがあると思って大学に進学したので、サッカー以外の交友関係が持てたというのは、自分にとって大きなプラスになっていると思います。

浅地●プロになるのを少し遅らせて、4年間はしっかり大学生活を送っておきたいという気持ちもあったのですか。

宮本●難しいところですね。サッカーも追求したかったし、それ以外の部分も大事にしたかった。プロになった当初、試合で遠征に行ったときにチームの人から「大学に行きながらプロとしてやるのは無理だ」と言われたことがあるのですが、その言葉を見返してやろう、絶対に大学を卒業してやろう、と思いましたね。そういう気持ちもかなり大きなモチベーションになっていたのは確かです。

浅地●同志社を選ばれたのはどうしてですか。

宮本●まずは練習場が近いこと、そして経済学部か法学部へ行きたいという希望があり同志社はそのどちらも優れているということ、その2つですね。経済学は自分自身の中で興味があったのですが、特に引退後を意識して選んだというわけではありません。

浅地●今は引退後のことは考えていらっしゃいますか。

宮本●まだ明確なビジョンはないですが、オーストリアに行ってそれまで日本で持っていた引退後の考えが少し変わってきましたね。サッカーで自分にできることがあるだろうし、プレーを終えたときに、選手としてサッカーに関わっただけで自分が満足するのだろうか、とも考えています。自分がサッカーに育ててもらったので、今度はそれを若い人に伝えないといけないという気持ちもあります。

浅地●長いサッカーのキャリアの中でやめたいと思ったことはなかったですか。

宮本●やめたいというのはないですね。「うまくいかないな」というときはもちろんありましたけど。

浅地●うまくいかないときにはどうやって乗り越えてこられたのですか。

宮本●まず、「うまくいかない」というもやもやした気持ちをどうしたら晴らせるのか、そのための目標設定をします。試合に出たいのに出られないときには、出るための努力をする。例えば、日本代表のチームでは二十

数人も優秀な選手がいるわけですから、試合に出られないこともあります。そんなときには、毎日の練習で自分ができるだけのことをしよう。そこで11人を選ぶのは監督の仕事であって、自分の力の及ぶ範疇ではないから、そこに到達するまでに自分自身がどれだけのことをやったのかと問いかけたときに、やれるだけのことはやったと自信を持って言えるようにしよう。それで監督が選ぶ、選ばないは、自分としては仕方のないことだと。22歳くらいでそういう考えを持つようになってからは、気持ちの持ちようをコントロールできるようになってきましたね。

浅地●キャプテンとしてチームを鼓舞したり、引っ張っていくのは大変だと思うのですが。

宮本●2004年のAFCアジアカップで優勝できたのですが、そのとき最初はチームの中で、試合に出られるメンバーと出られないメンバーの間で気持ちの温度差がありました。それが、勝つことでだんだんチームが一つになっていった。控えの選手の気持ちをうまく汲みとるとか、もちろんキャプテンとしてできる仕事は色々あると思うのですが、やはりチームが勝つ、それにみんなが参加するということで大きなベクトルになって進んでいくということが大きいですね。また、海外のチームでは、リーダーと呼ばれる選手はたとえ仲間の気持ちを少しくらい傷つけたとしても強い力でみんなを引っ張っていくというやり方もあります。私の場合は人を傷つけたりしないようにしながら引っ張っていくのがいいと思ってやってきましたが。

浅地●同志社大学の在学生に何かアドバイスをいただけますか。

宮本●自分が大学生活を送っていたときは、とにかく時間を大切にしました。サッカーをやっているときはまずそれに集中しましたし、大学の授業も貴重な時間なのでそのときはすごく集中してやりました。時間は無限にあるわけではないので、それを有効に使ってほしいと思います。大学の4年間で自分の将来のためにできることはたくさんあるはずです。

浅地●これから宮本さんを見てサッカー選手として育っていく子どもたちに、特に教えたいことはありますか。

宮本●自分がサッカーを始めた頃は、ただ毎日サッカーがしたい、シュートを決めたい、そしてうまくいったら嬉しくて、ただ純粋に心からサッカーを楽しむ気持ちでやっていました。プロになればまた違う側面も出てくるのですが、子どもたちには一つのスポーツとしてサッカーを楽しんでもらいたいですね。

浅地●私は高校の教師になって、バスケットボール部を全国大会に連れていきたいという夢を持っているのですが、アスリートとして何かアドバイスを頂けたら嬉しいのですが。

宮本●監督になるわけですよね。サッカーの監督がよく言うのは、日々勉強だということです。選手ももちろんそうですが、常に自分が成長することを考えながら進んでいけばよいのではないでしょうか。私の好きな言葉に「Seize the day」（今を生きろ）というのがあるのですが、今を大事にすることが自分の思い描く未来につながっていくのだと思います。

浅地●本日は貴重なお話をありがとうございました。このインタビューをきっかけにこれから私も頑張っていきたいと思います。

INTERVIEWER

浅地 恭子さん

経済学部4年次生（学年は取材時）

小学4年生でバスケットボールを始め、センタープレーヤーとして活躍。高校時代には国体に出場した経験を持つ。大学では、同志社女子大学のバスケットボール部で活動した。現在は公認会計士の勉強を続けつつ、将来高校の教員になってバスケットボールを教えるのが夢。

楽しむことをいつまでも忘れない気持ち。

今日宮本さんのお話を聞いて、純粋にサッカーが好きな気持ちと、つまずいたときに自分で立ち上がって行く精神的な強さを感じました。私ももしバスケットボールを子どもたちに教えることができたら、楽しむことを忘れないようにということは伝えていきたいです。日々勉強と言っていただいたことは、これからの指針として守っていこうと思います。指導者になって子どもたちを育てたいという気持ちが、宮本さんとお話をしてさらに強くなりました。

PRESENT

宮本恒靖さんからサイン色紙を頂きました。
ご希望の方はハガキかe-mailで、住所、氏名、学部（卒業年）、One Purposeの感想をご記入のうえ、5月31日（消印有効）までにご応募ください（宮本恒靖さんのサイン色紙希望と必ず明記のこと）。
抽選で8名の方にプレゼントします。

※広報課の連絡先は裏表紙の記載。収集した個人情報は、グッズ送付ならびにアンケート内容の分析にのみ使用します。

産官学連携の第一人者として

～ベンチャーは意欲に溢れた若い弁護士に最適のフィールド～

ベンチャー支援を行う弁護士の草分け的存在と言われる五島洋さん。企業法務を専門分野とする弁護士の他にもうひとつ、「NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク」副理事長の肩書きを持つ。

大学発のベンチャー起業が効果的に実現されていないのは、産業界と大学がそれぞれの特性を理解し、うまく機能させるための枠組みができていないことが、大きな理由。そこで、大学や企業の関係者などが利害を超えて連携し、行政にも働きかけて、新たな産官学連携のモデルを構築しようと発足したのが同NPOだ。そこには、経営者、起業家から弁護士、公認会計士、大学教員など、数多くの卒業生が参画している。

「理想の産官学連携を進めていくには、大学、企業、行政それぞれが異なった主張をする三極構造から離れた組織が必要です。そこで同志社大学の卒業生を中心に、企業経営者、大学の先生、適切なアドバイスやサポートができる弁護士や公認会計士といった専門家がメンバーに加わって、ボランタリーベースで活動していければ、本当の意味での産官学連携が実現できるのではないかと考えたのです」

だが、五島さんは、必ずしも最初からベンチャーを含めた企業を、弁護士としての活動の対象としていたわけではない。それどころか、そもそも弁護士が第一志望ではなかったという。岡山大学から同志社大学大学院法学研究科へ。刑法の研究者になることが夢だった。大学院在学中の1996年、実力を試す意味も含めて受験した司法試験に合格。しかし、いずれは大学へ戻って研究したいと思っていた。「考えが変わったのは、父が病気で倒れ、早く仕事に就かないといけない状況になったことが大きな理由です。それに私自身、外の世界を見たいという気持ちも強くなっていました」

そして、中村潤一郎法律事務所（現・弁護士法人飛翔法律事務所）に入った。当時の事務所は、個人の民事、刑事や地元の企業が主な顧客で、五島さん自身、そうした個人を相手にした弁護活動を志望していた。

弁護士は通常、3～5年は勤務弁護士、俗に言う『イソ弁』を経験する。ところが、五島さんの場合は違っていた。中村弁護士から求められたのは、ただ勤務することではなく「対等のパートナー（共同代表者）」としての役割。この特殊な就職の仕方が、また弁護士としての五島さんの方向を変えることになった。

「対等とはいえ、最初から顧客を持っているわけではありません。対等のパートナーとして過分な報酬を事務所から支給されながら、始めは肝心の仕事がなかなか見つからなかった」

「地域リソース再起動シンポジウム」にて

何とかしないといけないと悩んでいた時、会計士の友人に誘われて始めたのが、ブーム前夜にあったベンチャー企業の法律面でのサポート。企業の体制構築から株式上場まで、どんどん新しいことにチャレンジしていくベンチャーでは、法律問題も短期間で解決し結果を出さなければならない。若く意欲に満ちた新進の弁護士には、最適のフィールドだった。

「今後は、企業の再建を助ける仕事もしていきたいと思っています。破綻の危機にある企業を再建し、雇用面を含めて被害を最小限に抑える。また、先端医療など社会性のある企業法務を手がけたいという希望もあります。これらは1人の人を救うより、結果的により多くの人を救えることになりますから」

”血の通った“弁護活動を、という五島さん。実践的で経営的な視点も取り入れた先端的企業法務の中心的存在だ。

五島 洋さん
【1996年法学研究科博士課程（前期課程）修了】

弁護士。弁護士法人飛翔法律事務所代表。企業法務のエキスパートとしてITビジネス、バイオ、産官学連携、知的財産・フランチャイズ、M&A関係などを手がけ、サポートしている研究機関も数多い。

※NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク　http://www.doshisha-net.org/

花を通して自分自身を見つめ、生きる力を見つけていく

～華道と心理学を融合したフラワーセラピーを独自開発～

フラワーセラピー。花を媒介にして、1対1で、あるいは多人数のグループで、その時々の思いを花に投影して語り合う。質問を投げかけ答える、その繰り返しの中で、自己と向き合い、気づきを得て、生きる力にしていく。花と心理学を融合したフラワーセラピーを独自に開発、展開しているのが浜崎英子さんだ。

彼女と花、そして心理学との出会いは、18歳の時だった。華道本能寺の門下に入り生け花を始めるのと同時に、文学部文化学科心理学専攻に入学。その後、大学を卒業して社会人生活を送り、結婚、2人の子どもに恵まれた。しかし子育てや家事に追われるうち、時間だけが過ぎていく日々。

「ふと自分を顧みて、いったいどんな夢を描いていたのか、思い出せなくなってしまっている自分に気がついたのです。そんな時、ある生け花の作品を見て、涙がとめどなくあふれ出てきました。そして、私のそばには、ただ私の話に耳を傾けてくれる人がいて、私は自分自身を取り戻すことができたのです」

花と心理学を融合させれば、人が生きる力を取り戻す手助けができるのではないか。そう考えた浜崎さんは、専門学校に通って心理学をもう一度学び直し、心理学カウンセラー、アートセラピストの資格を取得した。自身が開いている華道教室に心理学を取り入れ、フラワーセラピー教室をスタート。より良い状態への成長、発達の援助や予防を目的とした「開発的カウンセリング」に取り組み始めた。そこでは、花材の選択、生け花を作る過程、作品、製作後のグループでの"分かち合い"などを通して、自分自身を見つめ、日常の生活に生かしていく。

1対1のフラワー心理カウンセリングも行う。「どんな人も、自分の人生を自分らしく生きる力を持っています。フラワーセラピーもそれを信じきることから始まります。自分がどんな思いを持ち、これからどのように生きていけばいいのか、誰もが知りたいことです。私がそうだったように、花は人に生きる力を与えてくれます。そして、心理学やカウンセリングには、自分の真の力を見いだす手がかりがあります。その2つの力を融合させたものが、私の考えるフラワーサイコロジーの世界なのです」

華道教室やフラワーセラピーの講演会などを展開する一方、後身のフラワーセラピストを育成していくために「フラワーサイコロジー研究所」を立ち上げ、所長を務めている。新年度からは、本学の感情・ストレス・健康研究センターの研究員となり、花に対する人の心理反応や生体反応、生け花の精神生理学的効果、フラワーセラピーの臨床効果の科学的検証などを行っていく。

社会人になって心理学を学び直そうとした時、「すぐに疑問を聞ける先生は近くにいないし、勉強する時間も必死で見つけないといけない。そんなことは大学生のときには考えもしませんでした」と言う浜崎さん。「学生の皆さんには、今ここでしかできないこと、勉強はもちろんアルバイトでも恋愛でも、できるだけたくさんのことを経験してほしい。これはカウンセリングも同じで、その瞬間にしか経験できないのです。過去や未来のことを考える時に、今ここで自分が何を思い、何を感じるかを言葉にしていくことで、人はさまざまな気づきを得ていくのです」

フラワーセラピーを始めて良かったと実感するのはどんな時かと尋ねると、「その時に出会えた皆さんの言葉や表情などから、私自身も喜びを感じます。来ていただいた方の学びになって良かったと思うのです」。そう言っておだやかに微笑んだ。

フラワーサイコロジーの作品

フラワーセラピーのカウンセリングの様子

浜崎 英子さん
【1988年文学部文化学科 心理学専攻卒業】

華道本能寺の家元華務職として正統な華道の普及・発展に取り組む一方、日本カウンセリング普及協会認定の一級心理カウンセラー、アートセラピストの資格を持ち、心理学をベースにしたフラワーセラピーを独自に開発し実践中。

※2009年度同志社大学は心理学部および心理学研究科を開設する予定（構想中）です。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。
級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

キャリアアップは1つの目標。それは、頑張ったことが認められた結果だから。

1992年に日本アイ・ビー・エム(株)に入社、野洲事業所、野洲研究所で勤務していました。研究所には6年ほどいましたが、その間の1996年に初めて海外出張の機会を得たのです。米国アイ・ビー・エムへ1カ月間。その経験が、私を「アメリカで仕事をしたい」という気持ちに向かわせるきっかけになりました。

新しい半導体プロセステクノロジーは常に米国アイ・ビー・エムで始まります。しかも、米国アイ・ビー・エムには、1日8時間、週40時間を守れば、どのような時間に働いてもいいというフレキシビリティがあります。こういう仕事がしたいという希望も、できるだけ叶えようとしてくれる。そんな環境で半導体設計の仕事をしたいと思い、2000年、出張でアメリカに来ていたとき、会社に日本からアメリカへの異動を働きかけたのです。実現するには日米双方の重役の承認が必要で、本来なかなか認められるものではありません。可能になったのは、周りの方々に助けていただいたからですが、私自身、一生懸命仕事をしているという自信もありました。

憧れだったMBAにチャレンジしたのは、アメリカに移って4年目のことでした。最初は住まいの近くにある大学に1年間通ったのですが、仕事と大学の授業、そして自宅での勉強と、すごくハードな生活でした。会社のサポートに応えるためにも仕事はきちんとしたい。いい成績で卒業したかったので勉強も手を抜きたくない。自由な時間をすべて排除して、結局、すごくストレスを抱えることになりました。

ストレスによりホームシックにかかり、日本人がより多く在住するニューヨークやカリフォルニアに移ることも考えましたが、どこへ行っても寝る、食べる、勉強する、仕事をする。やることはその4つだけ。だったらもう少しゆとりを持たないとやっていけない。仕事が終わった後に大学に通うスタイルでは無理だと気づいて、インターネットの通信教育で学べるアリゾナ州立大学に変えたのです。また一からのやり直しでしたが、仕事をしないといけないときは仕事に、勉強が必要なときは勉強に集中し、うまく時間をコントロールすることができるようになって、2年後には無事、念願のMBAを取得することができました。

今はいろいろなことのファーストステップが終わった段階だと思っています。日本から米国アイ・ビー・エムへ移った時点で一段階昇進したのですが、その後7年の間に2段階上がりました。キャリアが上がっていくことは、会社に認めてもらっているということですから、キャリアアップは一つの目標です。何より仕事が好きなので、普通の人の倍は働いていると思いますし、その努力や磨いたスキルが認められるのは嬉しいことです。今は半導体設計の部門でシニアエンジニアとしてチームをまとめていますが、いずれはビジネススクールで学んだことを生かしてマネジメントの仕事もしたいと思っています。

私は、「無理そうだからやめる」というのは大嫌いなのです。とりあえずやってみて、最大限の努力をして、それでも駄目だったら諦めればいい。だから後輩の皆さんは、チャンスがあれば何にでもトライしてほしい。それができる時期は限られていますから。

PROFILE

中島 智子さん

【1992年工学部電子工学科卒業】
IBM Corporation
システム&テクノロジーグループ
マイクロエレクトロニクス
ASICデザインセンター
シニアエンジニア

日本アイ・ビー・エム(株)から米国本社アイ・ビー・エムへ。ほとんど例のない“異動”を果たすことができたのも、精力的に働きながらアリゾナ州立大学を65人中4番目という優秀な成績で卒業、容易ではないMBA取得を成し遂げたのも、持ち前のチャレンジ精神とへこたれない強い心があったからこそ。いつ降りかかるかもしれないlayoff(不景気などによる一時解雇)のリスクを抱えながら、「仕事がある限りアメリカにいたい」と、どこまでも前向きだ。

私と「仕事」 第37回

為替の仕事のダイナミズムを知り、実力を試すべく外資系企業に挑戦

海外で働きたいという思いがあって、もともとは商社を希望していました。ただ、就職活動で100社以上を回り、最終的に決めたのが東京三菱銀行でした。東京銀行時代から海外に強く、海外で働くという希望が叶うのではないかと考えたのです。そして名古屋で4年間、主に法人担当の営業をし、大阪にいた2年間で為替の仕事を経験しました。

現在のUBS銀行に移ったのは2002年のことでした。東京三菱時代の同僚がUBSに転職していて誘われたことがきっかけですが、最初はお断りするつもりでした。名古屋でいろいろな仕事をする中で初めて為替と出合い、大阪では自分の希望どおり為替の仕事をさせてもらえた。大阪で一から教育を受け、さあこれからという時に会社を変わるのですから、自分でもずいぶん悩みましたし、UBSという日本ではあまり知られていない会社へ移るということで、当然周囲も反対でした。しかし、為替の仕事のダイナミズムを大阪の2年間で知り、ある程度の知識と自信もついたところで、日本とはまったくスタンダードが違う外資系の銀行で自分の実力を試してみたいという思いが強くなり、転職を決意したのです。

お客様のニーズに合わせて商品を作る、オプションでいろんなものをオーダーメイドしていく。東京三菱で携わった為替の仕事もやりがいがありましたが、UBSに移っても基本的な仕事内容は変わっていません。ただ、東京三菱時代と違うのは、やはり日本での会社の規模が小さく、メンバーの数も少ないということです。だからすべてを自分たちでやらないといけない。既存顧客のケアも新規開拓も、さらには新しいビジネスを作ることも、それぞれが少ない人数で最大の収益を上げるためにどうすれば良いかということを常に考えなければなりません。

あまり知られていませんが、UBS銀行は東京における外国為替のシェアではトップなのです。デイトレードを扱う業者のバックにあるデータもUBSのものです。これは社員の能力の高さとともに、チャンスを逃がさない意思決定の早さがあるからです。邦銀とは違うことを考え、それをいち早く実現していくという戦略が、UBS銀行の何よりの強みですね。

学生のみなさんには、就職活動のための学生生活を送るのではなく、自分のやりたいことをやってほしい。限られた時間の中で、やりたいことをやる。それが結果的にいちばん伸びると思うのです。社会人になって思うのは、常に自分も進化していかないといけないということです。自分が進化しないと会社も進化しないし、お客様も進化できない。最近私は、イノベーション、コミュニケーション、イマジネーションという言葉を常に頭に置いています。革新、人との交流、そして想像力。社会人10年目になって改めてそういうことが重要だと思うようになりました。

海外で働きたいという思いは今も変わっていません。それが転職を決めた理由の一つでもありますから。いつか金融の中心地であるロンドンで働きたい、それが今の私の夢です。

PROFILE

東川 宗照さん

【1998年経済学部卒業】
UBS銀行東京支店
外国為替部 FXアドバイザー
ディレクター

バスケットボールの強豪、京都・洛南高校出身。同志社大学入学後、体育会バスケットボール部へ入部したが、「より多くの人と出会い、いろいろな世界を見たい」と退部。多種多様なアルバイトをして10カ国以上の外国を訪れたことが、海外で働きたいと思う原点になったという。UBS銀行では、自分の後に続く若い力の発掘にも尽力。その結果、同じ同志社大学の後輩を含め、3人の若手が入社した他、為替業務では珍しい新卒の採用も実現した。「関東の大学が就職に有利だといわれる中で、同志社は決して負けていない。関西にも優秀な人材がたくさんいるということを、企業側ももっと考えるべきですね」という言葉には説得力がある。

C E M E N T

CLAP うたとお芝居のワークショップ参加者募集!

◆上演作品:「セロ弾きのゴーシュ」　原作:宮澤賢治　作曲:林光
◆公演日:2008年7月6日(日)
◆練習日程:主に6月までの毎週水曜日18:00〜21:00
※上記の他、休日練習・公演直前練習・自主練習があります。詳細は申込書を参照してください。
◆練習会場:同志社大学寒梅館
◆募集対象:積極的に練習に参加できる方・7/6(日)の公演に出演できる方および4日、5日の直前練習に出席できる方・小学生〜50歳くらいまで。
※小学生は保護者と一緒に参加してください。
※練習はほとんどの時間、立ったり動いたりしながら行います。
体力に不安のある方はご相談ください。
◆募集人数:未定
◆講師:二口大学(ふたくち だいがく)(演出・演技指導)
伊東恵司(指揮・合唱指導)　川上明子(舞台監督・舞台制作指導)ほか
◆参加費(予定):中学生〜大学生3,000円　一般・本学教職員10,000円　小学生1,000円
◆申込方法◆
参加申込書(学生支援課窓口にあります)を学生支援課窓口(両校地可)まで提出してください。　申込期間:4月1日(火)〜4月21日(月)

♪観に行こう聴きに行こう♪ ―学生団体4月〜5月の活動予定―

京田辺校地ではオリエンテーション期間の4/2〜4/7、今出川校地では4/3〜4/5に、クラブ・サークル活動紹介・入部受付を行っています。新入生歓迎イベントも続々と開催します!

【京田辺校地ハローホール(多目的ホール)】
●4月8日(火)同志社交響楽団「新歓コンサート」　時間未定
●4月9日(水)邦楽部「新入生歓迎演奏会」　時間未定
●4月10日(木)F.B.I.「新歓上映会」　時間未定
●4月11日(金)F.B.I.「新歓上映会」　時間未定
●4月14日(月)neuf「新歓ショー」　時間未定
●4月17日(木)soul 2 soul「新歓ダンスステージ」　12:30〜
●4月19日(土)FAC「1,2回生コンサート」　13:00〜
●4月25日(金)喜劇研究会「新歓ライブ」　13:30〜
●4月26日(土)The Amplugged「新歓ライブ」　時間未定
●4月28日(月)映画研究会「上映会」　時間未定

【寒梅館ハーディーホール】
●5月5日(月・祝)ギタークラブ
「第3回 現役&OB共同コンサート“ Concert Collaboration ”」16:00〜

【寒梅館クローバーホール】
●4月25日(金)F.B.I.「新歓上映会」12:30〜

【新町別館小ホール】
●4月25日(金)〜4月27日(日)演劇集団Q「新入生歓迎公演(演目未定)」
※1日目18時〜、2日目14時〜/18時〜、3日目14時(開場は開演の30分前)

【学外】
●4月12日(土)・13日(日)能楽部狂言会「卯月狂言会」
御香宮神社(近鉄桃山御陵駅・京阪伏見桃山駅下車)
※12日 13:00〜/13日 10:00〜 入場無料
●4月27日(日)鉄道同好会「鉄道博覧会in伊賀2008」10:00〜16:00
伊賀鉄道上野車庫(伊賀鉄道上野市駅)　入場無料
●5月3日(土・祝)ギタークラブ
「同志社ギタークラブ×立教スペインギタークラブジョイントコンサート」時間未定
彩の国さいたま芸術劇場(埼玉県)　入場料未定
●5月31日(土)マンドリンクラブ「第152回定期演奏会」18:00〜
大阪府立青少年会館(JR森ノ宮駅より徒歩10分、地下鉄森ノ宮駅から徒歩8分)
入場料500円
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7410
今出川校地学生支援課　TEL:075-201-3270

学生保健部会　献血

今出川校地
【日　時】4月21日(月)　10:00〜15:45(休憩11:15〜12:15)
【場　所】今出川校地　明徳館ラウンジ前
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3281
京田辺校地
【日　時】4月18日(金)　10:15〜15:30(休憩11:15〜12:15)
【場　所】ラーネッド記念図書館裏
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7435

「世界学生環境サミットin京都」ボランティアスタッフ募集

昨年4月、学内の省エネ、廃棄物などの環境問題に、大学と学生が協力して取り組むため、同志社エコプロジェクト(DEP)を立ち上げました。
エコプロジェクトは、学内の省エネ、廃棄物、自然環境の保全活動に取り組むとともに、環境シンポジウムの開催など社会への提言を行ってきました。
今年は日本で洞爺湖サミットが開催され、その主要なテーマとして地球温暖化などの環境問題が大きなテーマといわれています。そこで今年6月、DEPの学生が中心となり、地球規模の環境破壊の問題に関して、G8、中国、インドなどの学生たちを京都に招致し、地球市民の立場から議論を展開する「世界学生環境サミットin京都」開催を企画しました。
本サミットでは、「環境とエネルギー技術」、「環境と持続可能な社会」を主なテーマとして、世界各国の学生たちが活発な議論を展開し、未来へのメッセージを発信します。
世界各国の大学から参加する学生たちと地球の未来に関する議論をしてみませんか。
サミット参加のボランティアスタッフを募集中です。

【お問い合せ先】
世界学生環境サミットin京都実行委員会事務局
同志社ローム記念館302
TEL:0774-65-7851・7852　http://st-summit.doshisha.ac.jp/

同志社ローム記念館プロジェクトメンバー募集

「何か打ち込めるコトない?」という方に朗報です!プロジェクトに参加して、スキルアップをはかりませんか?

《誘致プロジェクト》
●大学生キャリアサポートプロジェクト
(参加団体:独立行政法人　雇用・能力開発機構　私のしごと館)
●実用情報をのせた3Dアニメプロジェクト
(参加企業:ダイキン工業株式会社)
●新しい「シリアスゲーム」教材企画プロジェクト
(参加企業:株式会社ベネッセ・コーポレーション、
株式会社 空、株式会社アントルビーンズ)
●BRーモバイルカレッジ(参加企業:ビジネスラリアート株式会社)
●マナビジョン
(参加企業:株式会社アルケアルコ、カゴヤ・ジャパン株式会社)
●手書きでデジタルプロジェクト(参加企業:株式会社シールズ)
●同志社エコプロジェクト〜環境問題に係わるテレビ番組制作プロジェクト
(参加企業:同志社大学、株式会社KCN京都)

《公募プロジェクト》
●全学リサーチ・カンパニー
●同志社レスキューロボットプロジェクト
●メールで奏でる京都

《コアプロジェクト》
●学生コアスタッフ
各プロジェクトの詳細、メンバー申込票のダウンロードは、ローム記念館ホームページ(http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/)からどうぞ。
【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)
TEL:0774-65-7800　E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げてくださる方を募集しています。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて随時受付中です。

【対　象】一般・他学生(本学学生・教職員は対象外)
【会費無料】
【特　典】寒梅館イベント情報の郵送、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント・入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引 etc.
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

A N N O U N

京田辺校地の食堂が4月8日にリニューアルオープン!

■「オムニバス食堂」「各専門店（4店）」が変わります
コンセプトは、①単に食べるだけのスペースではなく「コミュニケーションスペース」を意識した店作り、②「スピーディー」な食事の提供、③「安く」「おいしい」という学生食堂本来の役割です。

大食堂	●カフェテリアFUJIYA（平日9:00～16:00、土曜10:00～14:00） カフェテリア方式。新たに店内にフードコンビニ的な空間を設け、軽食にも対応します。
各専門店（4店）	●カリーハウス（カレー） ●めん風（ラーメン） ●いも文（麺・丼） ●ふじカツ（とんかつ） 平日11:00～15:00 土曜11:00～14:00

■「オリンピア食堂」が変わります
「Davis Cafe」としてオープン。体育実技を履修する学生や体育会クラブに対応。テーピングなどの用品を販売するコンビニ的な空間も設けます。

●Davis Cafe	平日11:00～21:00　土曜11:00～19:00 日曜祝日は予約または催事に合わせて臨時営業 朝食については、クラブ・サークルからの予約対応で営業

【お問い合わせ先】　京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7435

新入生対象フレッシャーズキャンプ2008参加者募集!

同級生、上級生＆教職員スタッフと触れ合う1泊2日。新入生の皆さんが有意義な大学生活を送るきっかけとして、また学部を超えた友人を作るチャンスとして、ふるってご参加ください!
【日　程】①4月12日(土)～13日(日)　②4月19日(土)～20日(日)
【定　員】各回80人(学部新入生対象)　【参加費】5700円
【場　所】同志社びわこリトリートセンター
【お申し込み】①4月2日(水)～8日(火)　②4月2日(水)～15日(火) ※先着順受付
3月に郵送されている申込書に記入のうえ、両校地いずれかの学生支援課へ（定員になり次第、受付終了）。
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7410
今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

新入生歓迎特別講演会　竹岡 広信氏

「大学での勉強法～自分の殻を破るために～」
ドラマ、漫画『ドラゴン桜』に登場するカリスマ英語教師のモデルともなった竹岡氏に、大学生活を送るうえでのメッセージを熱く語っていただきます。
【日　時】4月15日(火)15:00～
【場　所】京田辺校地ハローホール（多目的ホール）
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7410

新入生歓迎・筍掘り＆焚き火の会

キャンパスに群生する筍を掘って、筍ご飯作りに挑戦します。香りかぐわしい筍ご飯を楽しみながら、燃えさかる炎の前で語らえば、初対面でもすぐに打ち解けられます。2年次生以上の参加も歓迎です。
【日　時】4月19日(土)13:00～　【場　所】リザーブ1集合(申込不要)
【参加費】無料（汚れてもよい服装でご参加ください）
【お問い合わせ先】S-cube（京田辺校地学生支援課・嗣業館1F）　TEL:0774-65-7021

第26回函館キャンプ

創立者新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道・函館で“新島襄の生き方を学び、同志社を見つめ、人と人との出会いやふれあいの中、自己を振り返ろう”という趣旨で行われる5泊6日の合宿プログラムです。
【実施期間】2008年8月11日（月）～16日（土）
【申し込み】2008年4月18日（金）～5月16日（金）に、所定の申込書を記入のうえ、両校地いずれかの学生支援課へ提出してください。
※説明会を開催しますので、ぜひご参加ください。
2008年4月22日（火）15:00～　今出川校地寒梅館地A会議室
2008年4月23日（水）15:00～　京田辺校地知真館1号館232番教室
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7410

障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

キャンパスで学ぶ障がい学生(challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、ぜひパソコン通訳、ビデオ字幕付けなどのスタッフとして活動してください。各種講習会も開催していますので、興味のある方は学生支援課障がい学生支援室までご連絡ください。　時給:一律880円
＜支援活動の内容＞
聴覚障害:ノートテイク、パソコン通訳、ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こしなど
視覚障害:講義資料・試験問題の点訳・電子データ化・拡大コピー、
対面朗読、代筆、代読、ガイドヘルプなど
肢体不自由:代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など
【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課　TEL:0774-65-7411
今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3273
e-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

アッセンブリーアワー学生企画募集

各界でご活躍の方々をお招きし、幅広い知識と教養を書物やテレビを通してではなく、直接講師の人柄に接することによって得られる機会として、アッセンブリーアワーという時間を設けています。講演会、コンサート、演劇、映画、作品展等、多様な形態で開催しています。今回も、皆さんの意欲と知識によって企画をプロデュースする「アッセンブリーアワー学生企画」を募集します。
【応募要領】●対象:本学学部生　●募集する企画の実施期間:5月～
●応募期間:4月14日（月）～5月16日（金）
●学生支援課（両校地）に備え付けの所定の企画書を提出してください。
●実施については学生支援課で選考・決定します。
●実施予算及び補助額は1企画10万円程度とします。
●企画終了後、報告書及び決算書を提出する必要があります。
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270

WOT（ワット）=What's on Thursdays!

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。
【会場】寒梅館ハーディーホール　【料金】本学学生・教職員はすべて無料

cinema

●**4月17日（木）映画『象の背中』**10:30～／13:30～／16:00～／18:30～
監督:井坂聡　原作:秋元康　出演:役所広司、今井美樹
●**4月24日（木）新作試写会**　要整理券（詳細未定）
●**5月8日（木）≪京 eco cinema festival≫プレ企画**
映画『エリン・ブロコビッチ』15:00／18:30
監督:スティーブン・ソダーバーグ　出演:ジュリア・ロバーツ
●**5月15日（木）≪憲法月間　映画のつどい≫映画上映会**（詳細未定）
●**5月22日（木）≪京 eco cinema festival≫プレ企画**
映画『WATARIDORI』15:30／18:30
総監督:ジャック・ペラン
●**5月29日（木）映画『トゥーランドット』**10:30～／13:00～／15:00～
監督:アラン・ミラー　オペラ演出:チャン・イーモウ
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。6月も毎週木曜日、映画上映を予定しています。詳細はお問い合わせください。

クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を特集上映します。
【会場】寒梅館クローバーホール（地階）【料金】本学学生・教職員はすべて無料
≪ピナ・バウシュの世界／来日公演記念≫
●**4月15日（火）**16:45～『嘆きの皇太后』（106分）
18:45～『そして船は行く』（127分）
≪音楽／映画≫ vol.1　シュトックハウゼン生誕80年記念／追悼
●**4月22日（火）**16:45～『Helicopter string quartet』（76分）*日本語字幕なし
18:15～　清水穣先生(言文センター)　レクチャー
19:15～『シュトックハウゼンの「モメンテ」』（45分）
【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課　TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

One Purpose <ワンパーパス> 同志社大学通信154号
2008年4月1日(4・6・10・12月年4回)発行
発行 同志社大学 企画部広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 TEL 075-251-3120 FAX 075-251-3080
E-mail jj-koho@mail.doshisha.ac.jp

PRINTED WITH SOY INK

My Purpose 挑戦する人

レスリングでアジアジュニア選手権優勝

～目標はこの夏初めて出場するインカレの優勝トロフィー～

3歳年上の兄がやっていた影響で4歳から始めたレスリング。兄が通っていたレスリング教室に付き添いで行っているうちに、いつの間にかその魅力に引かれていきました。最初はただがむしゃらなだけでしたが、幼稚園の時に初めて出場した大会の幼年の部で初戦敗退。はっきりした記憶には残っていませんが、その時から負けず嫌いの性格に火が点いたのかもしれません。レスリング教室も、幼稚園の頃は同年代の子が3～4人しかいなかったのが、小学校に入る頃になると10人ほどに増え、一緒にやるのが楽しかったというのと同時に、ライバル意識も芽生えてきて、負けたくないという気持ちが出てきました。そして小学3年生の時、全国大会に出場して優勝。試合に勝って、一生懸命練習した結果が出てくるようになるにつれて、また頑張ろうと思うようになりました。

中学を卒業する時に「高校ではレベルも上がるし、続けていくのは大変かもしれない」と少し迷いました。けれど、結果的に女子レスリング部のある高校を自分で選んだのは、すっかり体になじんでいたマットから離れるのが嫌だったからかもしれません。高校では、1年生の時にジャパンクイーンズカップのシニアの部51kg級で準優勝。2年生で全国女子高校選手権54kg級で3位、3年生では優勝することができました。

同志社大学への進学は、幼稚園の時から教えてもらっていた先生が同志社の監督をしておられたこともありますが、今レスリング部に在籍している女子の先輩が同じレスリング教室で一緒にやっていた人だったから、というのが一番の大きな理由です。神学部は、必修科目が一つしかなく、自分がやってみたいことを幅広く勉強できるという点に惹かれました。同志社大学のレスリング部は先輩と後輩の関係がそれほど厳しくなく、自由な雰囲気があるのが好きです。女子部員は私を含めて二人だけですが、みんな明るくて仲が良く、体育会という空気をあまり感じさせません。神学部の授業ともしっかり両立できています。

大学に入ってからは、昨年4月にJOC杯ジュニアオリンピック55kg級で準優勝、7月にはアジアジュニア選手権55kg級で優勝しました。今の目標は、今年の夏、初めて出場するインカレで優勝することです。それが達成できれば、大学卒業時にレスリング生活にピリオドを打っても悔いはありません。

Profile

国枝 美香さん
【神学部2年次生】
※学年は取材時